

第3章 活動別の実績とその評価

活動名	1. 子どもの虐待予防活動
これまでの取り組み	<p>心療科における被虐待児の治療と連携をしながら、親支援や地域とのサポート体制づくりをし、虐待の再発予防・家庭再統合に役割を果たしている。</p> <p>また、センター全体でも虐待を早期発見し、支援ができるようにと、院内関係スタッフからなる虐待ネットワーク委員会を発足し、当センターを受診される要支援家族への支援と院内の体制整備に努めている。</p> <p>虐待の予防にも視点を置き、県内の周産期医療機関や保健機関と協働で予防システムの構築をすすめている。</p>
活動内容	<p>1. 虐待予防・支援のための保健医療相談活動</p> <p>1) 専門家への対応と事例への対応</p> <p>虐待・虐待予防に関する保健医療相談は1,675件で全相談の38.4%であった。電話が919件、面接相談が709件、文書・メールが14件、その他が33件であった。</p> <p>専門家との相談が742件(44.3%)と最も多く、次いで母619件(36.9%)、本人83件(5.0%)、父29件(1.7%)、祖父母23件(1.4%)、その他・不明167件(10.7%)であった。</p> <p>相談の内容は親への支援1,166件(69.6%)、子どもへの虐待337件(20.1%)、子どもへのケア156件(9.3%)、その他16件(1.0%)であった。</p> <p>時間外電話相談にも27件の相談があった。</p> <p>2. 院内での虐待の早期発見・支援活動</p> <p>1) 虐待ネットワーク委員会ケース検討会議の実施</p> <p>今年度新規事例29事例、継続事例15事例、計44回開催した。</p> <p>地域関係機関を含めた検討会議は42事例、院内関係者のみでの検討会議は2事例、延べ267名の関係者の参加があった。</p> <p>2) 院内虐待ケースの進行管理カンファランスの実施・充実</p> <p>月1回を目安に計9回開催した。</p> <p>今年度新規事例124事例、延べ169事例について進行管理を行った。</p> <p>新規事例の現在の受診状況や地域での支援状況について、毎年調査を実施しているが、平成19年の新規事例127件については、継続受診中が91件(71.6%)、転院・終了が21件(16.5%)、治療は中断だが地域での支援が継続している事例が10件(7.9%)で、治療中断でかつ状況が不明は5件(4.0%)であった。過去の虐待のために受診した事例であったので、地域へは情報提供はせず、終了とした。</p> <p>平成17年の事例186件について、19年にあらたに不明となった事例は3件(1.6%)、平成18年の144件について、19年にあらたに不明となった事例は3件(2.1%)であった。</p> <p>3. 周産期からの虐待予防活動</p> <p>1) ハロー・ファミリーカードプロジェクトの拡大・充実</p> <p>19年4月より衣浦東部保健所管内の保健所・市町保健センター・7医療機関・1助産施設でカードの配布を開始した。</p> <p>17年度から配布を行っている西尾保健所管内へは会議や利用状況調査などを通してカードの活用を再度依頼した。</p>

<p>活動内容</p>	<p>2) 保健機関における周産期から乳幼児期の保健活動の集約と医療機関等への情報提供 周産期医療機関との連携を図るため、保健機関に対し、乳幼児期の母子保健活動についての情報更新を依頼し、ホームページに情報を提供した。</p> <p>3) 研修会の開催 周産期医療現場スタッフが取り組む子育て支援に関する研修会を松山赤十字病院小児科部長の小谷先生を講師として開催。周産期医療機関、保健機関など、計 57 名の参加があった。内容については概ね好評であった。</p> <p>4) 調査・研究 ハロー・ファミリーカードプロジェクト参加機関に対し、子育て支援に関する意識調査を実施。</p>
<p>評価方法</p>	<p>1. 虐待に関する保健相談の推移 2. 地域とのネットワーク会議の実施 3. 院内虐待ケースの進行管理カンファランスの内容分析 4. 「ハロー・ファミリーカードプロジェクト」の推進状況</p>
<p>評価</p>	<p>虐待・虐待予防に関する保健・医療相談はほぼ横ばいであった。専門家との相談・母との相談件数もほぼ横ばいであり、今年度も保健師の役割である関係機関と連携した継続支援と親支援が行うことができた。</p> <p>院内での虐待対応は、心療科のみでなく、他科とも連携した対応が可能であった。院内で発見された他科事例への対応も比較的速やかに行うことができた。一時保護事例の他科入院に際しては、院内での体制整備が不十分だったこともあり、今後はこうした事例への対応を振り返りながら、よりよい支援体制整備のため院内マニュアルの作成などを検討していきたい。また、センター職員全員が虐待予防の視点が持てるよう、虐待ネットワーク委員会の活動だけでなく、ケースの連携や子育てスクールを通し、院内の体制整備に努めていきたい。</p> <p>保健では、虐待対応のみでなく虐待予防に視点を置き、周産期からの虐待予防を目的にハロー・ファミリーカード事業、乳幼児期の保健活動の情報提供、研修などを実施している。</p> <p>ハロー・ファミリーカードは西尾保健所管内、衣浦東部保健所管内で引き続き実施しているが、西尾保健所管内では 2 年を過ぎ、カード導入によって、医療機関と保健機関が顔を合わせる機会が増えたといった評価などを頂いた。カードの追加の希望もあり、カード配布が普及していることがうかがえた。</p> <p>衣浦東部保健所管内では導入 1 年目の評価を行った。カード導入後には、医療機関と保健機関の連携を意識するスタッフが増加している傾向がみられた。虐待対応や支援に関する意識も高まっており、カード利用が周産期からの虐待予防に有効であることが示唆された。カード導入を見合わせていた医療機関からも配布の希望がくるなど、拡がりをみせている。来年度以降も県下の別の保健所管内での導入を検討している。今後も研修会や会議を通して周産期からの虐待予防の理解に努めるとともに、カードの普及にも努めていきたいと考えている。</p> <p>今後も虐待の早期発見・再発防止、院内の体制整備と虐待予防に視点を置き、事業を展開させていきたい。</p>

活動名	2 . .時間外電話相談活動																		
<p>これまでの取り組み</p>	<p>当センターでは、平成13年11月のオープン時より、地域の保健機関が閉庁する午後5時から9時までの間、専門相談員が育児や母子の健康についての相談に対応する本事業を実施してきた。</p> <p>開設当初より20,000件以上の相談があり、家庭の中で孤立した育児をしている母親の悩みや心配に対応している。相談件数は年々増加し、電話に対応できない件数も増加する等、県民から大きな信頼を受けている。</p> <p>相談内容の分析から、夜間救急に受診する前段階の相談に対応し不必要な受診を避ける役割や相談で自分の対応に支持を受けたい母のニーズに応えたり、子どもの発育・発達・日常生活等、相談相手のいない母の不安の受け皿として重要な役割を担っている。</p>																		
<p>活動内容</p>	<p>1. 専用電話相談窓口「育児もしもしキャッチ」の運営</p> <p>電話相談員の体制を火～金は3人、土は2人として実施したが、相談員の確保が困難で、火～金曜日でも2人体制で実施することもしばしばあった。</p> <p>相談件数は、6,471件で昨年度(6,735件)の96.1%であった。対応不能件数件を加えた総着信数は8,866件(H18度9,511件)であった。</p> <p>相談対象者は「子ども」が94.5%で、「本人自身」が4.4%であった。</p> <p>相談内容は「育児相談」が95.6%を占めていた。育児相談のなかで最も多かったのは、「子供の病気と手当て」に関することの44.0%であった。「事故相談」が12.1%、「泣き」等の「日常生活」に関することが10.1%、「授乳」に関することが7.6%の順であった。</p> <p>「虐待」に関するものは27件で、気になる事例については地域の関係機関の支援を受けているかを必ず確認し、関係機関への相談を勧めていった。</p> <p>2. 専門相談員の連絡会(研修会)</p> <p>母の主訴をきちんと聴くことや傾聴について学ぶため3回実施。</p> <table border="1" data-bbox="395 1429 1358 1910"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>受講者数</th> <th>講師</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事例検討「攻撃的な相談者への対応」</td> <td>5人</td> <td>臨床心理士 今本 利一</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>電話相談技術研修会 「電話健康相談とは 人が人に相談するということ」 「電話相談の基幹技術 『自己理解』と『傾聴』」</td> <td>10人 (外部 受講者 46人)</td> <td>保健同人社 相談事業本部長 高橋 敏子氏 電話相談室クリニカルスー パーバイザー鎌田博司氏</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事例検討「育児をがんばれないと電話相談を繰り返す相談者への対応」</td> <td>7人</td> <td>臨床心理士 今本 利一</td> </tr> </tbody> </table>			回	テーマ	受講者数	講師	1	事例検討「攻撃的な相談者への対応」	5人	臨床心理士 今本 利一	2	電話相談技術研修会 「電話健康相談とは 人が人に相談するということ」 「電話相談の基幹技術 『自己理解』と『傾聴』」	10人 (外部 受講者 46人)	保健同人社 相談事業本部長 高橋 敏子氏 電話相談室クリニカルスー パーバイザー鎌田博司氏	3	事例検討「育児をがんばれないと電話相談を繰り返す相談者への対応」	7人	臨床心理士 今本 利一
回	テーマ	受講者数	講師																
1	事例検討「攻撃的な相談者への対応」	5人	臨床心理士 今本 利一																
2	電話相談技術研修会 「電話健康相談とは 人が人に相談するということ」 「電話相談の基幹技術 『自己理解』と『傾聴』」	10人 (外部 受講者 46人)	保健同人社 相談事業本部長 高橋 敏子氏 電話相談室クリニカルスー パーバイザー鎌田博司氏																
3	事例検討「育児をがんばれないと電話相談を繰り返す相談者への対応」	7人	臨床心理士 今本 利一																

	<p>3. 時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」相談情報分析</p> <p>4. 育児もしもしキャッチの広報活動 案内カードの配布（保健センター、保健所、子育て支援センター、医療機関等）子育てネット情報、Iモード、母子健康手帳挟み込みのパパとママへのお知らせへ案内を印刷</p> <p>5. 相談員確保のための活動</p>
<p>評価方法</p>	<p>1.相談情報の分析 件数、対応不能件数、地域、相談経路、時間帯、所要時間、相談者の続柄、対象者の年齢、相談内容、結果についての分析</p> <p>2.相談員連絡会の参加者数と参加者の感想</p>
<p>評価</p>	<p>相談件数は6,471件（1日平均26.5件）と昨年度を上回る相談件数で、県民の高いニーズがあると認められ、今後の事業の継続が期待される。</p> <p>対応不能件数は2,395件（月平均9.8件）総着信数は8,866件であったが、平日3人の相談員が確保できない時もあり、県民のニーズに十分応えることができなかった。</p> <p>相談内容は育児相談が94.5%を占め、孤立化する育児環境のなかで気軽に相談できる窓口として、育児不安の軽減に寄与した。相談の56.1%に及ぶ「子どもの病気や手当て」、「事故相談」では、夜間救急の受診へ迷いをかかえる母等に対し、不安軽減のサポートができた。また、出産後早期に育児不安を訴える相談者には、地域の保健サービス等を具体的に知らせ、利用につなげた。「イライラするとこの電話をかけます。」と母のつらさ、不安に共感や傾聴を求められる相談もしばしばあり、育児支援の一助となった。</p> <p>相談情報の分析からでてきた母子保健のニーズを、地域保健関係者に還元する事により地域の保健事業に活用してもらった。</p> <p>相談員の研修会は、相談の質の向上のために外部講師により1回、院内の臨床心理士を助言者に2回開催した。外部講師による研修では地域の保健機関の職員も受講対象としたところ、申込みも多数となり電話相談技術に関する関心の高さが伺われた。研修に参加できない相談員には研修内容を掲示する等、知識の共有を図った。事例検討を通して、相談時に悩んだ事例について今後の対応のヒントを得た等の前向きな意見がだされた。しかし、相談員の確保と質の維持・向上は今後の課題でもある。</p> <p>約30名の相談員を確保しているが、シフト調整に苦慮しており、相談員の確保のための活動はしているが、相談従事場所が自家用車に乗れないと往来が不便であること、さらに、夜間帯の従事、低賃金等の理由が人材の不足に影響していると考えられる。</p>

活動名	3. 母子保健スキルアップ研修	
これまでの取り組み	平成 15 年度から技術習得・現場還元型の研修として、市町村の保健師を対象に母子保健スキルアップ研修を実施してきた。平成 15 年度は乳幼児健診事後のカンファレンスをテーマとして実施。平成 16 年度は、子ども虐待の事例に取り組む場合には組織的な対応が必要であることから、虐待の事例に組織的に関わり保健師が一人で抱え込まない体制作りをテーマとした。平成 17 年度の研修内容は、子ども虐待の事例に取り組む場合の重要な 3 つのスキル（事例の評価と支援計画のスキル、家族との面接スキル、ケースカンファレンスのスキル）の向上をねらいとした。平成 18 年度は、発達障害児とその家族に対する支援をテーマに、具体的な事例をとおしてグループワークやロールプレイ、心療科外来での陪席を組み合わせたプログラムで行った。	
活動内容	<p>【目的】市町村の保健師が乳幼児健診時において、保育・家庭環境の問題での支援の要不要の判断、また、支援を要すると思われるケースへの支援の方法等適切な判断ができ、その後の支援につなげることができるようにすることとした。</p> <p>【研修プログラム】</p>	
	研修日	内 容
	1 H19.7.12(木)	<p>グループワーク：母子健康診査マニュアルの事後管理システムの保育・家庭環境分類の問題で、要支援とする判断について考えた。</p> <p>講 話：児相での事例への関わりの経験からの情報提供や、地域での支援について大切な視点などのお話をいただいた。 (講師 中央児童・障害者相談センター 主任主査 検校規世)</p>
	2 H19.9.7(金)	<p>グループワーク：受講者が関わりのある事例を通して過去の健診時の判断や支援などを振り返り必要な支援について話し合った。</p>
	3 H19.12.6(木)	<p>グループワーク：第 1 回、第 2 回の研修をふまえて、保育・家庭環境分類の判断から必要な支援につながるように、考え方や視点を整理した。</p>
H20.2.7(木)	<p>「母子保健スキルアップ研修報告&シンポジウム」 テーマ“子育て支援における保健師の役割” 座長 あいち小児保健医療総合センター 総合診療部長兼保健室長 山崎嘉久 平成 19 年度母子保健スキルアップ研修報告会 <発表者> 阿久比町 大岩由記、岩倉市 河邊良枝、 西尾市 森下和美、豊田市 伊藤靖恵 第 2 部 シンポジウム 子育て支援における保健師の役割～児童相談所からのメッセージ～ 中央児童・障害者相談センター 検校規世 保健所における子育て支援 豊川保健所 椎葉直子 子育て支援における市町村保健師の役割 江南市保健センター 宮島まち子</p>	

評価方法	1. 研修修了時の受講者へのアンケート
評 価	<p>研修後のアンケートによる評価：</p> <p>1 第1回から第3回研修の評価 (研修終了後のアンケートの記載内容から抜粋)</p> <p>【研修への満足度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身が子育て支援について、立ち止まって考える機会になった。 ○ 母子健康診査マニュアルのあげ方などを再度見直す機会になった。 ○ 日頃疑問に思っていることや困っていることについての情報を共有できた。また、迷っていたことが解消できた。 ○ 他市町とマニュアル集計の捉え方の違いなど比較検討できた。 ○ 普段何気なく行っているマニュアル管理だが、その活用に向けた今回の話し合いは、今後の健診フォローに参考になった。 ○ マニュアルについて考え直すきっかけになった。各市町のマニュアル報告のやり方、判断根拠について知ることができた。 ○ この研修をきっかけに、分類について職場で話し合うことができてよかった。 ○ 母子マニュアルで市町保健師が困っていることなどを共有することができた。 ○ このケースになぜ支援が必要かを考える機会となった。 <p>【参考になったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ マニュアル上(書類上)でも、支援の必要なケースをあげるようになった。 ○ 母の気持ちに沿った支援をすること。 ○ 保育・家庭環境分類の管理区分B,Cの判断基準 ○ 各市町によって、マニュアルの判断の違いや考え方が聞け参考になった。また、その根拠となる問診項目などの情報も聞けよかった。 ○ マニュアルの使い方を見直すきっかけとなった。 ○ 市町で保育環境分類のあげ方が数にかなりバラツキがあることを実感した。 ○ 健診個々のケースの対応、一人で判断するものではなく、スタッフが(共感した)同一意見でみていけるようになりたい。 ○ 市町によってマニュアルの基準やフォロー体制に違いがあること。自分の市のマニュアル基準が見えた。 ○ 保育・家庭環境分類をみる時、どれも関連していて、疾患分類にも関連してくることもあるため、一緒にみる必要があること。 <p>【職場での今後の検討など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、市としてのマニュアルを見直している。今回の研修では保育・家庭環境分類のみだったが、検討材料にしたい。 ○ もっと情報交換していく予定。特に要観察となった場合のフォロー体制は適切かなど。 ○ 保健師間でマニュアルの分類で共通認識をもつことが大事であると思う。まずは研修報告をする。

2 第4回研修～母子保健スキルアップ研修報告会&シンポジウムの評価

(研修終了後のアンケートの記載内容から抜粋)

【参考になったこと】

* 母子保健スキルアップ研修報告に関して *

- 支援を必要とする項目において、客観的な視点の共有化ができた。要観察・要指導への分類方法、見極めのポイント。
- マニュアルの集計の要指導と要観察の判断は、いつも悩むところだった。これでいいのだろうか?と思いながら計上していたところもあったが、研修をとおして、計上の判断にずれはないのだと知ることができよかった。マニュアル集計の活用について、気づかずにいた事に気づけた。
- 指導か観察かの判断基準が共有形成されていく過程の話が参考になった。各市町毎に話し合うべきことでもあると思う。
- 母子健診マニュアルは単なる集計だけでなく支援と密接につながっている。
- マニュアルの考え方が変わった。今後はどのように子育て支援に活かしていけるかを考えていきたい。

* シンポジウムに関して *

- それぞれの立場からの子育て支援についての話。立場や関わる方向が違っても根底は同じだと思った。
- 母子保健事業や家庭訪問等をとおして保健師としてどう親子と向き合い、保健師の専門性を発揮することが求められているかを各部局の方から聞くことができた点。
- 保健センター以外に勤務している保健師さんの生の声を聞いたこと。改めて保健師の役割、視点を見直していきたい。

【母子健康診査マニュアルの保育・家庭環境分類に関する意見】

- 育児の大変さ、困難さが当市のマニュアルには数字があがっていなかったと思う。保育の中分類はいずれでもよいが、支援の必要な家庭を落とさない手段としていきたい。
- 計上して報告するという認識があったが、そこから見えてくるもの、市の特徴として保健師の活動実績としての意味もあることがわかった。
- 健診の場で面接した保健師の判断に任せ過ぎている現状を、職場で再検討する必要性を今回の研修会で再認識できた。管内保健師で検討するなどの機会があるとよいと思った。
- どこに計上するかが重要でなく、そのケースについて何が気になり、どう支援が必要かをカンファレンスで話し合うのが大切だと思う。

研修全体の評価：

4つのグループの報告から、「大切なことは支援が必要なケースを見落とさず、そして支援することである。」とまとめることができた。グループワークや職場への還元などを通して様々な内容を共通に理解でき、貴重な成果であったと思われる。

活動名	4 . ケースを通しての連携																																												
これまでの取り組み	<p>保健部門では、入院・通院患者さんで特に子育て支援の必要なケースに対して、院内の医療部門・地域と連携をとりながら支援をしている。</p> <p>平成 15 年 8 月 1 日に保健室の保健師と医療部門の看護部長及び外来・病棟師長が一緒になり、連携についての打ち合わせ会を開催した。その際、医療部門と保健部門が連携を深めていく必要性についてお互いに確認し、様式「ケース連絡票」を作成した。</p> <p>平成 15 年 10 月から、退院するケースについて、各病棟から作成した様式を使って（但し、急な場合は口頭で連絡あり。）保健部門への連絡があり、保健部門として地域を見据えた支援を開始した。</p> <p>年々子育て支援に関する課題を明確にし、改善しながら継続している。</p> <p>平成 18 年度には、入院早期から必要な連携が行えるよう看護部と一緒に「サポート連絡票」の様式を作成し、入院時の問診時に、子育ての視点をもって問診ができるようにした。</p> <p>また、院内連携システムをよりわかりやすく、共有できるように「子育て支援マニュアル」を作成した。</p>																																												
活動内容	<p>1 「子育て支援マニュアル」のケース連絡票を用いた連絡は、58 件。</p> <table border="1" data-bbox="504 1077 772 1424"> <tr><td>21 病棟</td><td>14 件</td></tr> <tr><td>22 病棟</td><td>13 件</td></tr> <tr><td>23 病棟</td><td>6 件</td></tr> <tr><td>31 病棟</td><td>14 件</td></tr> <tr><td>32 病棟</td><td>9 件</td></tr> <tr><td>外 来</td><td>2 件</td></tr> <tr><td>計</td><td>58 件</td></tr> </table> <table border="1" data-bbox="842 1077 1206 1621"> <tr><td>泌尿器科</td><td>1 件</td></tr> <tr><td>神経科</td><td>4 件</td></tr> <tr><td>小児外科</td><td>10 件</td></tr> <tr><td>感染症科</td><td>3 件</td></tr> <tr><td>循環器科</td><td>15 件</td></tr> <tr><td>腎臓科</td><td>4 件</td></tr> <tr><td>予防診療科</td><td>2 件</td></tr> <tr><td>アレルギー科</td><td>4 件</td></tr> <tr><td>形成外科</td><td>1 件</td></tr> <tr><td>内分泌科</td><td>4 件</td></tr> <tr><td>心療科</td><td>10 件</td></tr> </table> <p>2 「ケース連絡票」以外に、外来受診時に医師または看護師から電話で、母の育児支援または母の精神面の支援の面接依頼があり、その後の継続支援につながったケースが 33 件あった。その内訳は下記のとおりであった。</p> <table border="1" data-bbox="478 1861 1299 1957"> <tr><td>心療科</td><td>28 件</td><td>感染症科</td><td>1 件</td></tr> <tr><td>循環器科</td><td>3 件</td><td>神経科</td><td>1 件</td></tr> </table>	21 病棟	14 件	22 病棟	13 件	23 病棟	6 件	31 病棟	14 件	32 病棟	9 件	外 来	2 件	計	58 件	泌尿器科	1 件	神経科	4 件	小児外科	10 件	感染症科	3 件	循環器科	15 件	腎臓科	4 件	予防診療科	2 件	アレルギー科	4 件	形成外科	1 件	内分泌科	4 件	心療科	10 件	心療科	28 件	感染症科	1 件	循環器科	3 件	神経科	1 件
21 病棟	14 件																																												
22 病棟	13 件																																												
23 病棟	6 件																																												
31 病棟	14 件																																												
32 病棟	9 件																																												
外 来	2 件																																												
計	58 件																																												
泌尿器科	1 件																																												
神経科	4 件																																												
小児外科	10 件																																												
感染症科	3 件																																												
循環器科	15 件																																												
腎臓科	4 件																																												
予防診療科	2 件																																												
アレルギー科	4 件																																												
形成外科	1 件																																												
内分泌科	4 件																																												
心療科	10 件																																												
心療科	28 件	感染症科	1 件																																										
循環器科	3 件	神経科	1 件																																										

	<p>3 58件の連絡ケースについて地域との連絡方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>総数</th> <th>カファルス</th> <th>面接</th> <th>文書</th> <th>電話</th> <th>母支援のみ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>58件</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>100%</td> <td>19%</td> <td>12.1%</td> <td>31%</td> <td>22.4%</td> <td>15.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>ケースによっては、重複して連絡を取り合っているケースがあるが、左方優先で計上した。</p>	総数	カファルス	面接	文書	電話	母支援のみ	58件	11	7	18	13	9	100%	19%	12.1%	31%	22.4%	15.5%
総数	カファルス	面接	文書	電話	母支援のみ														
58件	11	7	18	13	9														
100%	19%	12.1%	31%	22.4%	15.5%														
評価方法	ケース連絡票による、支援内容の検討																		
評価	<p>1 地域の保健師、学校、訪問看護ステーション、介護支援センターなどへの連絡が多かったが、センター内での母支援のみも9件あった。</p> <p>2 医療部門から「ケース連絡票」と共に、「子育て応援申込書」による連絡件数は15件（25.9%）であった。18年度は、86件中の29件（33.7%）であった。今後も機会をとらえて周知の必要があると思われる。</p> <p>3 地域からの返信は、文書によるもの17件。電話によるもの11件であった。文書連絡（返信票を同封している）に対する返信については、18件の文書連絡に対して返信票による返信が11件（61.1%）あった。</p> <p>4 外来受診時から（ケース連絡票を使わず）保健師へ連絡があったケースは、33件であり、特に心療科については、外来受診時に主治医から担当保健師への母支援の依頼が28件あり、保健部門との連携については十分機能していると思われた。</p>																		

活動名	5. アチェメック子育てスクール
これまでの取り組み	<p>近年核家族化が進み、また家族機能が低下している家庭が増えていると感じられる中、子育ての負担が母親に大きくかかっている現状がみられる。</p> <p>かつてのように地域の中で、祖父母や隣人などに子育てを助けてもらったり、あるいは子育てを代わってもらったりすることができず、子育ては不安で困難な仕事になっている母親もいる。また結婚して母親になる過程で子育ての知識や技術を自然に身につける機会がなく、子どもを抱くのもわが子が初めてという母親が増えているとも感じている。</p> <p>そこで、平成 17 年 4 月に、保健部門と各病棟・外来の医療部門と連携し、母と子が入院中に育児力を身につけられるよう「アチェメック子育てスクール」を開始した。</p> <p>平成 17 年度の実施件数は、4 家族 5 事例。平成 18 年度は 5 家族 6 事例であった。</p>
活動内容	<p>1 アチェメック子育てスクール</p> <p>【目的】乳幼児期の子育てに困難のある家族が、不適切な養育に陥らないように、未然にその持てる力をエンパワーすること、ならびに地域で暮らすのに必要な社会資源を快く利用できるよう地域の関係機関に円滑に繋ぐこと。</p> <p>【対象者】病気で入院した子どもの家族に対して、担当看護師が看護アセスメントする中で、育児不安が強いと判断した人、具体的な育児上の心配などについて母から相談のあった人等に対して、母や家族の希望も踏まえ、病棟内での関係者によるカンファレンスで決めている。</p> <p>【実施内容】実際に行う母や父と相談しながら、その子どもの退院後の生活をイメージした内容（離乳食やお風呂など）であり、日常生活に関する簡単な支援プログラムである。</p> <p>具体的には、身の回りの整理整頓および食事指導、スキンケアと離乳食、ミルクの与え方、おむつ交換と臀部ケア、子どもの生活リズムをつけること、お風呂への入れ方、遊び方、事故予防等・・・</p> <p>【実施件数】1 家族 1 事例</p> <p><目的> 母に子どもへの関わり方について遊びを通して学んでもらい、母子がともに楽しく過ごせる時間を得られる。</p> <p>生活の流れの中でスキンケアがスムーズに行えることで、母のスキンケアに対する負担感を軽減させられるようにする</p> <p>退院後も支援を受けながら、母が疲労をためることなく育児できるよう、地域の関係機関との調整を図る。</p> <p><関係者> カンファレンスで、主治医・看護師・保育士・保健師の役割を確認し、連携して対応した。</p> <p>2 学術活動 「小児専門病院における子育て支援」 アチェメック子育てスクール</p>

	2007.11.16 第29回全国地域保健師学術研究会(滋賀県)
評価方法	評価表により、関係者(主治医、病棟看護師、病棟保育士、保健室保健師)で、実施内容を振り返りながら、良かったこと、やり残したことなどについて検討した。
評価	<p>1 19年度は、1家族1事例であった。</p> <p>2 事例に関して：母と子どもが一緒に入院して、遊びを通してゆっくりと関わりを持つことで、母の気持ちが安定してきた結果、子どものかんしゃくが減ってきた。</p> <p>自宅での生活は母にとってストレスも高まると思えることから、入院中に地域の支援者に来室してもらい、関係者と母との顔合わせを行い、継続支援がスムーズに行えるよう配慮し母の不安の軽減を図った。</p> <p>3 「アチェメック子育てスクール」としての取り組みは1事例であったが、日頃から医療部門と連携してケース支援に関わる中で、「アチェメック子育てスクール」的な視点をもった支援も浸透してきたと思われる。</p> <p>20年度からは、ケースを通しての連携活動の一環として活用していく。</p>

活動名	6．訪問看護ステーション研修
これまでの取り組み	<p>小児看護のスキルアップを図り、小児の受入れ態勢の充実を図る目的で、平成17年度から、訪問看護ステーション等に勤務する看護師等を対象に、研修会を開催している。</p> <p>平成17・18年度の2年間は、腹膜透析の必要な患児の退院後の受入れ態勢充実を目的に、腎疾患を持つ子どもの看護や人工腹膜透析の理論と実際等を内容として実施した。受講者は、17年度：1回目・41名 2回目・30名、18年度：1回目・30名 2回目・28名であった。</p>
活動内容	<p>2年間の結果と受講者へのアンケートを踏まえ、今年度は小児の循環器疾患の子どもとその家族への支援をテーマとした。</p> <p>【目的】出生直後から入院治療が必要な循環器疾患の子どもとその家族が、退院後安心して療養できるように、地域で支援を行う関係者に対して、循環器疾患を持つ小児看護のスキルアップ及び退院後の支援体制の充実を図る。</p> <p>【日時、参加人員、内容】</p> <p>1日目：11月4日（日）9：30～15：30 参加人員：40人</p> <p>内 容</p> <p>講義「小児の循環器疾患について」安田循環器科診療科医長 講義「在宅酸素療法の実際」 ～退院指導：日常生活のケアのポイント～ 久野看護師 講義と実習「在宅酸素療法の実際」 ～災害時・緊急時の対応、機器の取り扱い～ 在宅酸素業者</p> <p>2日目：11月5日（月）13：30～16：30 参加人員：34人</p> <p>内 容</p> <p>講義「小児看護について」田崎小児看護専門看護師 講義「母子の愛着形成、家族の精神的なケアについて」 山腰小児救急看護認定看護師 講義「医療と地域との連携」加藤保健師</p> <p>*1日目の 以外の講師はあいち小児保健医療総合センターの職員 出席者の職種 看護師 32人 保健師 13人（2日間の実人数）</p>
評価方法	研修会終了後のアンケート調査
評価 (アンケート結果)	<p>【受講者の意見等】</p> <p>< 訪問看護ステーション看護師 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いずれの講義もわかりやすい内容で、勉強になった。 ・ 在宅酸素療法は、小児にかかわらず成人・老人でも参考になる内容で今後の仕事に活かしていきたい。 ・ 小児の訪問看護が多くなっている。看護技術から家族看護へ目を向けて行きたい。

評価
(アンケート
結果)

- ・意見交換の機会が持ててよかった。
- ・在宅酸素療法中の患者への訪問看護をしているが、濃縮器の扱いは初めて知ることもあり、役立てれそうです。
- ・在宅看護について、病棟で実際に工夫・配慮していることがあれば教えてほしかった。
- ・小児の研修はあまり機会がないので、大変参考になった。
- ・地域の保健師と情報交換できてよかった。

<保健師>

- ・災害時の支援体制について、参考になった。
- ・在宅酸素療法中の児に訪問している。機器の正しい操作方法、環境整備、業者との連携など医学的なことが学べよかった。
- ・意見交換の場もありよかった。

【講義別の評価】

		←-----→				
		良い				悪い
一 日 目		67.6%	18.9%	8.1%	5.4%	0
		33.3%	27.8%	33.3%	0	5.6%
		52.3%	35.4%	7.7%	4.6%	0
二 日 目		67.7%	23.5%	2.9%	5.9%	0
		79.5%	14.7%	2.9%	2.9%	0
		48.5%	33.3%	18.2%	0	0

小児の訪問看護については、約70%の施設が経験ありと答えており、その経験内容については、多い順から在宅酸素(17) 吸引(17) 気管切開(12) 経管栄養(12) 人工呼吸器(10) 胃・腸ろう(10)であり、腹膜透析(2)と人工肛門(2) IVHの管理(1)については、少なかった。

* ()は経験人数・重複あり

活動名	7 保育リーダー研修
<p>これまでの取り組み</p>	<p>障害児保育の充実により、多くの障害を持つ子どもが保育園で生活するようになり、それなりの成果をあげている。しかし、保育現場サイドから見ると、気になる子を含む、障害を持つ子どもたちをどのように理解し、どのように保育すればよいかについての系統的な理論や技術が十分に提供されているわけではない。そのため、子どもを直接担当する先生方は、高い情熱と意欲を支えに、子どもたちの問題行動への対応に試行錯誤と悪戦苦闘の連続の日々である。</p> <p>平成 15 年度より当センターでは、市町村で軽度障害を持つ子どもたちの保育の推進に関して、技術的な面での中心的な役割を担うことが期待される中堅の保育士を対象とした「保育リーダー研修」を実施している。当初は、知多半島エリアを対象に始めた研修であったが、平成 17 年度からは、愛知県健康福祉部児童家庭課の協力のもとに、県下全域を対象とし、また愛知県私立幼稚園連盟の協力も得て、幼稚園教諭も対象とした。</p> <p>また、この研修の成果として、気になる子の保育方法に関する「あいち小児センター方式」にまとめあげ、現場に還元している。</p>
<p>活動内容</p>	<p>【目的】小児保健医療総合センター保健室の調整機能と総合診療部の総合的な療育機能を活用し、気になる子を含む、障害を持つ子どもたちの理解と対応の、基本的な知識と技術について、学習する機会を提供することにより、地域で保育を進めていく上で、中核的な役割を担う保育士を養成すること。</p> <p>【対象者】愛知県内の市町村における保育所等において経度発達障害児や気になる子を健常児と共に保育する職員のうち、市町村等において推薦された保育士等 37 名</p> <p>【研修会の方法】</p> <p>5 回の研修会を実施した。初回については、講義及び継続観察の進め方の説明、参加者を 5 グループに分けグループワークを実施した。</p> <p>第二回以後は、全体会、グループワークを行うという形態で進めた。参加者全員が自分の勤務する保育所で特定の保育・観察対象児を決め、本研修会で提案する「あいち小児センター方式」による集中的・継続的関与観察を実施した。観察対象事例については、研修会での事例検討に加えて、適宜、メール・電話・ファックスなどを利用した個別のカンファレンスを行った。</p> <p>【日時、内容、参加人員】</p> <p>共通テーマ「軽度発達障害児の理解と保育」</p> <p>第 1 回 平成 19 年 5 月 29 日（火） 参加者 37 名 「軽度発達障害児の理解と保育について」 オリエンテーション・グループワーク</p> <p>第 2 回 平成 19 年 7 月 24 日（火） 参加者 37 名 全体会・グループワーク</p>

	<p>ねらい「焦点を絞った継続的な観察の実施 - 保育目標・場面・方法を定める」</p> <p>第3回 平成19年10月2日(火) 参加者 37名 全体会・グループワーク</p> <p>ねらい「子どもの能力を育てる」</p> <p>第4回 平成19年11月13日(火) 参加者 37名 全体会・グループワーク</p> <p>ねらい「問題行動への対応」</p> <p>第5回 平成20年1月16日(火) 参加者 37名 全体会・グループワーク</p> <p>ねらい「これまでの取り組みをまとめる」</p> <p>【報告書の作成】 「軽度発達障害児の理解と保育」平成19年度 保育リーダー研修報告書を、250部作成し、関係機関ほかに配布した。</p>																																										
評価方法	研修会終了後の参加者アンケート等																																										
評価	<p>保育場面での「気になる子どもたち」をキーワードに研修会を半年間に渡って実施してきた。</p> <p>この研修では半年間の間、1人の保育士が園で見ている1人の子どもを重点的に観察し援助をするということに平行して、各回のテーマに沿って全体では1事例を、グループではテーマに応じてグループ内から毎回1事例ずつを検討するという形で進めてきた。グループ検討では担当している保育士から事例を聞いてディスカッションし援助の視点や方法の確認をおこなった。</p> <p>研修後に実施したアンケートの結果(回答率65%)</p> <table border="1" data-bbox="395 1330 1401 1845"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>参考になった</th> <th>少し参考になった</th> <th>どちらともいえない</th> <th>あまり参考にならなかった</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>あいち小児センター方式について</td> <td>21(87.5)</td> <td>3(12.5)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>リーダーとのやりとり</td> <td>17(70.8)</td> <td>5(20.8)</td> <td>2(8.3)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>保育リーダー研修報告書</td> <td>16(66.7)</td> <td>8(33.3)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>研修で取り上げた事例</td> <td>15(62.5)</td> <td>6(25.0)</td> <td>2(8.3)</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>グループでの話し合い</td> <td>14(58.3)</td> <td>8(33.3)</td> <td>2(8.3)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>モデル事例について</td> <td>8(33.3)</td> <td>12(50.0)</td> <td>2(8.3)</td> <td>1(4.3)</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>研修で実施した各内容について参考になったかを5段階で評価してもらった結果は上記の表のとおりであったが、最も参考になった内容について複数(2つ)選択してもらったところ、「あいち小児センター方式について」32.6%と「グループでの話し合い」26.1%の2つが高い状況であった。</p>	項目	参考になった	少し参考になった	どちらともいえない	あまり参考にならなかった	無回答	あいち小児センター方式について	21(87.5)	3(12.5)				リーダーとのやりとり	17(70.8)	5(20.8)	2(8.3)			保育リーダー研修報告書	16(66.7)	8(33.3)				研修で取り上げた事例	15(62.5)	6(25.0)	2(8.3)		1	グループでの話し合い	14(58.3)	8(33.3)	2(8.3)			モデル事例について	8(33.3)	12(50.0)	2(8.3)	1(4.3)	1
項目	参考になった	少し参考になった	どちらともいえない	あまり参考にならなかった	無回答																																						
あいち小児センター方式について	21(87.5)	3(12.5)																																									
リーダーとのやりとり	17(70.8)	5(20.8)	2(8.3)																																								
保育リーダー研修報告書	16(66.7)	8(33.3)																																									
研修で取り上げた事例	15(62.5)	6(25.0)	2(8.3)		1																																						
グループでの話し合い	14(58.3)	8(33.3)	2(8.3)																																								
モデル事例について	8(33.3)	12(50.0)	2(8.3)	1(4.3)	1																																						

	<p>広汎性発達障害の子ども達が持つ複雑な問題を、理解可能な細かな要素に分割し、援助の視点を統一化し、子どもの安心や楽しく充実した生活をするという視点で継続的に生活援助を続けるということによって子どもの変化がよく観察できるようになったり、援助のポイントを絞って関わることで保育士と子どもとの間に信頼関係が育ち援助方法が段階的に変化した事例が多く報告された。受講された保育士からも今回経験した方法を用いながら他の子どもを見ていきたいという意見や園内での研修等での復命をし、他の先生との共有化をしてケース検討に利用していきたいという意見が聞かれた。こういった意見からもこの研修は保育現場での子どもの見方の一つの方法として受け入れやすいこと、1事例を継続して半年間見ていくことで子どもの変化を実感でき詳細な援助視点・方法を考え対応できる点など介入型研修として意義を果たしていると考えられる。</p> <p>研修の実施方法については、研修後アンケートの結果からもモデル事例の検討方法については検討が必要と思われ、グループワークでの時間が短いなどの意見もあり研修内容、進め方について検討し、次年度も実施していきたいと考える。</p>
--	---

活動名	8 . 生活習慣病予防活動 アチェメック健康スクール																																																			
これまでの取り組み	<p>平成 13 年度、協力機関のあいち健康プラザとともに、増加する子供の肥満や生活習慣病の改善のため、生活習慣病予防プログラム「アチェメック健康スクール」を企画、平成 14 年度、15 年度は教室形式（6 回 1 シリーズ）のプログラムを実施した。平成 16 年度、より医療部門と連携した内容とした。個別的継続的に取り組めるよう外来診療中心のプログラムに変更、問題を意識したときに通年いつでも始められることで、参加人数の制限も緩やかでより多くの対象にアプローチが出来る体制となった。</p> <p>さらに、平成 17 年度から、月 1 回計 5 回の外来診療の中で、参加者の生活実践記録、主治医と歯科医師、コメディカルスタッフの指導により健康的な生活習慣のあり方について親子で学ぶ教室とした。コース期間を短くし、まず生活習慣の見直しへの気づきの時間とし、参加者個々の評価は、教室のプログラム終了後の外来診療によるフォローアップを行っていくことで対応することとした。</p>																																																			
活動内容	<p>1. アチェメック健康スクール（子どもの生活習慣病予防教室）</p> <p>平成 19 年度年間参加者 35 人（うち、新規 20 人） 詳細は別紙</p> <p>(1) 個別指導</p> <p>アチェメック健康スクール外来：毎月第 2 土曜日</p> <p>スタッフ：内分泌代謝科医師 2 名、歯科医師、歯科衛生士、栄養士、臨床心理士、栄養士、理学療法士、保健師</p> <table border="1" data-bbox="399 1019 1410 1400"> <thead> <tr> <th>外来回数</th> <th>参加期間</th> <th>実施内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初 回</td> <td>0 か月</td> <td>身体計測、診察、歯科診察、血液検査、栄養指導、体力測定、心理検査、保健指導</td> </tr> <tr> <td>2 回目</td> <td>1 か月</td> <td>ライフコーダ（万歩計）解析、腹部 CT、栄養指導、身体計測、診察、保健指導</td> </tr> <tr> <td>3 回目</td> <td>2 か月</td> <td>身体計測、診察</td> </tr> <tr> <td>4 回目</td> <td>3 か月</td> <td>身体計測、診察、栄養指導、保健指導</td> </tr> <tr> <td>5 回目</td> <td>4 か月</td> <td>身体計測、診察、栄養指導、保健指導</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 集団指導</p> <table border="1" data-bbox="399 1444 1410 1968"> <thead> <tr> <th>実施内容</th> <th>スタッフ</th> <th>実施日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講話「健康を学ぼう」</td> <td>医師、歯科医師</td> <td>5/16、8/1</td> </tr> <tr> <td>・対象：保護者</td> <td>栄養士、保健師</td> <td>11/21、2/20</td> </tr> <tr> <td>・内容：子どもの肥満や健康づくり等の講話</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>親子で楽しく食べよう</td> <td>栄養士、歯科衛生士</td> <td>6/24、9/23</td> </tr> <tr> <td>・対象：子どもと保護者</td> <td>保健師</td> <td>12/16、3/24</td> </tr> <tr> <td>・内容：生活習慣病予防のための栄養教室</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(調理実習) 歯みがき指導</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>元気にスポーツ</td> <td>運動指導士(あいち健康プラザ)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・対象：子どもと保護者</td> <td>保健師</td> <td>5/2、7/15</td> </tr> <tr> <td>・内容：親子でできる運動を楽しく学ぶ</td> <td></td> <td>10/28、1/27</td> </tr> </tbody> </table>	外来回数	参加期間	実施内容	初 回	0 か月	身体計測、診察、歯科診察、血液検査、栄養指導、体力測定、心理検査、保健指導	2 回目	1 か月	ライフコーダ（万歩計）解析、腹部 CT、栄養指導、身体計測、診察、保健指導	3 回目	2 か月	身体計測、診察	4 回目	3 か月	身体計測、診察、栄養指導、保健指導	5 回目	4 か月	身体計測、診察、栄養指導、保健指導	実施内容	スタッフ	実施日	講話「健康を学ぼう」	医師、歯科医師	5/16、8/1	・対象：保護者	栄養士、保健師	11/21、2/20	・内容：子どもの肥満や健康づくり等の講話			親子で楽しく食べよう	栄養士、歯科衛生士	6/24、9/23	・対象：子どもと保護者	保健師	12/16、3/24	・内容：生活習慣病予防のための栄養教室			(調理実習) 歯みがき指導			元気にスポーツ	運動指導士(あいち健康プラザ)		・対象：子どもと保護者	保健師	5/2、7/15	・内容：親子でできる運動を楽しく学ぶ		10/28、1/27
外来回数	参加期間	実施内容																																																		
初 回	0 か月	身体計測、診察、歯科診察、血液検査、栄養指導、体力測定、心理検査、保健指導																																																		
2 回目	1 か月	ライフコーダ（万歩計）解析、腹部 CT、栄養指導、身体計測、診察、保健指導																																																		
3 回目	2 か月	身体計測、診察																																																		
4 回目	3 か月	身体計測、診察、栄養指導、保健指導																																																		
5 回目	4 か月	身体計測、診察、栄養指導、保健指導																																																		
実施内容	スタッフ	実施日																																																		
講話「健康を学ぼう」	医師、歯科医師	5/16、8/1																																																		
・対象：保護者	栄養士、保健師	11/21、2/20																																																		
・内容：子どもの肥満や健康づくり等の講話																																																				
親子で楽しく食べよう	栄養士、歯科衛生士	6/24、9/23																																																		
・対象：子どもと保護者	保健師	12/16、3/24																																																		
・内容：生活習慣病予防のための栄養教室																																																				
(調理実習) 歯みがき指導																																																				
元気にスポーツ	運動指導士(あいち健康プラザ)																																																			
・対象：子どもと保護者	保健師	5/2、7/15																																																		
・内容：親子でできる運動を楽しく学ぶ		10/28、1/27																																																		

健康になりたい子 集まれ!

アチェメック健康スクール

あいち小児保健医療総合センター、(財)愛知県健康づくり振興事業団共同企画

参加ご希望の方は、まず講話の申込みをしてください

講話「健康を学ぼう」

保護者の方に、健康に関する知識について 学んでいただきます。
アチェメック健康スクールの概要も説明します。
参加費は無料。予約してください。
一般開放です。健康スクール参加者以外の方も参加していただけます!

外 来

内科診察、メディカルチェック(血液検査、運動負荷心電図・呼吸機能検査、心臓および腹部超音波検査ほか)、歯科診察、個別プログラム(栄養指導、生活習慣改善指導、体力測定等)



保険証持参ください。
診察料、検査料等をご負担ください。

集団プログラム

親子で楽しく食べよう

栄養教室、調理実習や試食会
歯みがき指導
(親子で参加)
食材費は参加者が自己負担

元気にスポーツ

親子で実践できる運動プログラム
(親子で参加)
参加費は無料

集団プログラムは小学校高学年を
中心に実施します。

自分でやってみよう!

栄養、運動や生活習慣について、スクール外来で学んだことを生活の中で実践しましょう。良い習慣を身に付けて、親子でチャレンジ!

専門スタッフが継続的にご相談に応じます。

ここまでのプログラムを続けたお子さまとご家族には、生活習慣病を予防できるパワーがみなぎっているはず...。
主治医の先生の医学的な管理を継続して頂きながら、健康な「おとな」を目指してジャンプしましょう。

こんどは、あなたの出番です!

検査データなどすべて主治医の先生と情報共有させて頂きます。安心してプログラムにご参加下さい。

ご質問、お問い合わせはあいち小児保健医療総合センター・保健室まで。

Tel 0562-43-0500, fax 0562-43-0504, email:hoken_center@mx.achmc.pref.aichi.jp

ホップ

ステップ

ジャンプ

主治医による医学的管理

評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・身体計測値 (肥満度の変化)、・事前事後の問診表による状況把握 ・生活行動変容 (食生活行動の分析) ・参加後のアンケートによる感想等
------	---

〔 評 価 〕

1. 平成 19 年度の参加者状況

参加者数 35 人 (延べ 72 人)

うち新規参加者 20 人

(1) 性別

男	27人
女	8人
計	35人

(3) 肥満度

		初回	終回
軽度	20% ~ 30%	4人	0人
中等度	30% ~ 50%	13人	8人
高度	50% ~	18人	6人
-	20%未満	0人	1人
計		35人	15人

(2) 年齢

6歳	6人
7歳	4人
8歳	10人
9歳	4人
10歳	6人
11歳	3人
12歳	0人
13歳	1人
14歳	1人
計	35人

(4) 結果 (19年度未現在)

終了	15人
継続	5人
中断	12人
内分泌科の 管理へ変更	3人
計	35人

2. スクール修了者 (15 人)

No.	性別	学年	年齢	身長		体重		肥満度		肥満度		在期間 (月数)
				初回	終回	初回	終回	初回	終回			
1	女	小4	10	140.1	144.5	47.5	49.4	39.3	中	34.2	中	8
2	女	小3	8	138	140	45.3	45.2	35.1	中	31.8	中	4
3	男	小2	8	131.5	132.8	39.3	37.1	47.7	中	37.4	中	5
4	女	小1	6	120	120.6	38.1	38.2	66.4	高	69	高	4
5	男	中2	14	165.8	166.3	96.6	102.6	77.6	高	88.6	高	4
6	男	小1	6	119.2	121.2	31.4	32.9	39.6	中	41.8	中	6
7	男	小3	9	137.2	139.5	51.2	52.6	56.6	高	54.3	高	5
8	男	小1	6	116.5	118.7	28.9	32.5	37	中	47.7	中	5
9	男	小2	8	133.9	135.8	37.7	36.9	23.6	軽	15.3		4
10	男	小1	7	131.6	132.8	39.9	38.7	41	中	34.4	中	6
11	男	小4	10	138.9	140.3	47.7	48.2	43.2	中	38.5	中	6
12	男	小4	10	145	147.4	74.4	77.2	92.7	高	92.5	高	5
13	男	小3	9	122.3	124.2	33.6	35.5	50	高	49.2	中	4
14	男	小1	6	120.8	123.5	37.3	40.7	62.9	高	67.5	高	4
15	女	小5	10	149.3	151.4	66.5	64.7	63.4	高	53.7	高	4

(注) 高: 高度肥満、中: 中等度肥満、軽: 軽度肥満

3 平成 19 年度アチェメック健康スクール終了時のアンケート

【本人】

(複数回答)

(人)

スクールに参加して以前の生活と変化したところ、保護者が気をつけるようになったこと		
1	食事の量、内容に気をつけるようになった	13
2	おやつ量に気をつけるようになった	13
3	よくかんで食べるようになった	13
4	歯磨きをきちんとするようになった	9
5	生活リズム(早寝早起き、食事の時間など)に気をつけるようになった	11
6	外遊び、運動する時間を多くした	12
7	よく歩くようになった	7
8	お手伝いをするようになった	12
9	テレビを見る時間を短くした	6
10	ゲームをする時間を短くした	5
スクールで大変だったところ		8
1	スクール全体の目標を立てる	6
2	1週間の目標を立て感想を書く	9
3	生活チェック表を毎日書く	4
4	体重を毎日計る	0

【保護者】

健康スクールに参加して子どもの生活で以前と変化したところ、保護者が気をつけるようになったこと。		
1	食事の量、内容に気をつけるようになった	14
2	おやつ量に気をつけるようになった	9
3	よくかんで食べるようになった	9
4	歯磨きをきちんとするようになった	7
5	生活リズム(早寝早起き、食事の時間など)に気をつけるようになった	11
6	外遊び、運動する時間を多くした	10
7	よく歩くようになった	4
8	お手伝いをするようになった	9
9	テレビを見る時間を短くした	4
10	ゲームをする時間を短くした	5
スクールで大変だったところ		
1	スクール全体の目標を立てる	3
2	1週間の目標を立て感想を書く	5
3	生活チェック表、チェックリストを毎日書く	9
4	体重を毎日計る	3
5	食事調査票を書く	5

【参考になったこと、その他意見】

【集団栄養・歯科指導】

- ・野菜の上手なとり方など栄養指導は大変役に立ち意識的に生活できるようになった。
- ・歯の磨き方や栄養指導では量や味付けなど参考になった。

【集団運動指導】

- ・普段の歩き方とかもわかり気をつけるようになった。
- ・どれ位の運動をどれ位の時間行えばよいか参考になった。
- ・バランスボールによる体操(家庭でも取り入れることができるようになった)
- ・室内でのウォーキングが運動量がかなりあってよかったと思う。

【講話】

- ・肥満から色々な病気になったり、虫歯になりやすいことがわかった。
- ・肥満の怖さを知ることができ、注意すべき点がわかりよかった。

【全体】

- ・親子ともに食生活、その他生活においても意識が変わり身体を動かすという心がけもできるようになった。

対象：スクール修了者 15 人、回収 14 人

活動名	9．生活習慣病予防活動 親子のたばこ対策活動
これまでの取り組み	子どもへの受動喫煙防止のため、平成 18 年 10 月 1 日から終日敷地内全面禁煙となった。
活動内容	<p>1．喫煙に関する意識・実態調査 終日敷地内全面禁煙から 6 か月後の取り組みとして、下記の調査を行ない、受動喫煙防止をさらに勧める。</p> <p>(1)外来受診者の保護者に対する喫煙に関する意識・実態調査 調査期間：平成 19 年 5 月 2 日から 5 月 10 日まで 配布：921 名 回収：667 名（回収率 72.4%）</p> <p>(2)職員に対する喫煙に関する意識・実態調査 調査期間：平成 19 年 4 月 28 日から 5 月 10 日まで 配布：436 名 回収：386 名（回収率 88.5%）</p> <p>2．子育て禁煙外来開設の取り組み 院内で「子育て禁煙外来」開設に向け、関係スタッフによる検討を実施し、ニコチンパッチは院外処方となるため薬剤師会とも当センターの禁煙外来について調整を図った。平成 20 年 3 月に外来や各病棟へ「子育て禁煙外来」の案内ポスターを掲示した。</p> <p>3．HPへ受動喫煙防止の啓発資料を掲載</p>
評価方法	・敷地内全面禁煙について知っている人の割合
評価	<p>職員への意識・実態調査では、職員の喫煙率は 8.0%（男性：%、女性：%）であった。敷地内全面禁煙の導入による喫煙本数の変化では、喫煙者 31 名中、「変わらない 15 名」、「減った 12 名」、「増えた 4 名」であった。引き続き、小児病院は敷地内全面禁煙が当然であるという立場で職員へも働きかけていく必要がある。</p> <p>また、保護者への調査の結果、「当センターが敷地内全面禁煙であることを知らない者」が 44.8%であったため、禁煙のポスターの内容と掲示場所の見直しを実施した。また、禁煙したいと考えている喫煙者は 36%で、「わかっているが止められない」等の記述もあり、今後の禁煙外来へいかしていきたいと考えている。</p>

活動名	10. 愛知県予防接種センター事業
これまでの取り組み	平成 13 年 11 月に愛知県予防接種センターとして設置され、予防接種センター設置要領に基づき事業を展開している。接種要注意者等に対する予防接種の実施を始めとして、予防接種に関する情報の収集・提供、保健医療相談、教育研修、調査研究を実施している。接種要注意者等に対する予防接種は市町村との契約で実施しており、予防接種実施件数や相談件数も年々増加している。
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接種要注意者、海外渡航者等に対する予防接種の実施 予防接種実施件数 1,522 件 契約市町村数 21 市町 2. 保健医療相談及び情報提供 相談件数 1,172 件 3. 調査検討委員会の開催 調査検討委員会 1 回、研究部会 2 回 4. 調査研究 (1) 日本脳炎の予防接種に関する情報の提供による啓発活動 ポスター作成 2,300 部、リーフレット作成 6,000 部 県内幼稚園・保育園、県内市町村、小児科クリニック、小児科標榜する病院に配布 (2) 「愛知県予防接種センターにおける日本脳炎ワクチンに対する相談の現状と啓発」をまとめた。 5. 学術活動 ・「保育園・幼稚園児（年長児）の任意接種の状況 麻しん及び風しん混合ワクチン第 2 期接種状況との比較から」2007.9.21 第 54 回日本小児保健学会（群馬県） ・「年度途中に変更された麻しん及び風しん第 2 期接種に対する保護者の反応とその対応」 中澤和美 2007.10.25 第 66 回日本公衆衛生学会総会（愛媛県） ・「愛知県予防接種センターにおける日本脳炎ワクチンに対する相談の現状と啓発」 2008.3.15 平成 19 年度「ワクチンの有用性向上のエビデンス及び方策に関する研究」内容報告会並びに予防接種関連事業総会報告会（東京都）
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談件数と相談内容の分析 2. 日本脳炎ワクチンに関するポスター等配布による啓発活動の効果判定
評価	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療相談 (1) 相談内容は、「接種時期・方法」に関する相談が最も多く 61.8%を占めた。 (2) 相談者は本人・家族が約 8 割以上と多く、その相談内容は「基礎疾患と予防接種」、「接種スケジュール」で合わせて 66%を占めていた。 (3) 「接種スケジュール」の相談が多いのは、当センターが予防接種センターとして、市町村保健センター等の利用が図られていると思われた。 2. 調査研究について 日本脳炎ワクチンの定期接種について、平成 17 年 5 月 30 日付けで厚労省積極的勧奨の差し控えという状況の中で、正確な情報の提供が必要と思われた。 そこで、日本脳炎ワクチンに関するポスターとリーフレットを作成し配布した。 また、予防接種センターにおける日本脳炎ワクチンに対する相談の内容を分析した。

活動名	11. 愛知県遺伝相談センターの活動
これまでの取り組み	<p>愛知県遺伝相談センターとして、保健師による一次相談と専門医師カウンセラーによる遺伝相談を実施している。相談件数は年間 50 件前後だが、年々減少傾向にある。医師等の専門家と住民への広報活動を行い、相談ニーズへ対応している。</p> <p>愛知県内の保健・医療・福祉関係機関との連絡会議を実施し、遺伝相談の課題に取り組んでいる。</p>
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝カウンセラーによる面接相談 相談件数 28 件 2. 保健師による一次相談 相談件数 43 件（面接 17 件、電話 22 件、メール 4 件） 3. 情報サービス 小児センターホームページに遺伝相談実施状況について情報掲載 遺伝ネットへの登録 医療連携医・市町村・保健所へ遺伝相談案内のリーフレットの配布 4. 遺伝相談連絡会議の実施 平成 19 年 3 月 11 日（火）に開催
評価方法	遺伝相談相談者数と紹介経路
評価	<p>遺伝相談医師による相談件数は 28 件、保健師による電話相談・面接相談は 42 件で昨年より増加に転じた。院内に遺伝相談案内のポスターを掲示したところ、それを見て相談に来たという人が多く見られた。当センター利用者には、まだニーズがあると考えられるので、今後も院内掲示や医師への周知を行い、院内の相談ニーズに対応していきたい。また、県民への周知も図るため、今後も保健所や保健センターを通じたパンフレットの配布や医師会を通じた広報も行っていきたい。</p> <p>相談も 1 回で終了する人から数回利用される方と様々だが、相談終了時には、また何かあったら相談くださいと伝え、気持ちのフォローに心がけている。保健師は、遺伝相談の振り分けや家族歴の聴取だけでなく、相談にこられた方の精神的な負担の軽減と子育て支援に今後も役割を果たしたいと考えている。</p> <p>遺伝相談連絡会議では、今後の相談体制のあり方について検討することができた。会議での意見を参考にしながら、今後も県民にとってよりよい相談体制の整備を図っていきたい。</p>

活動名	12. 子どもの事故予防活動																												
<p>これまでの取り組み</p>	<p>乳幼児死亡の1位は不慮の事故による死亡が、愛知県においても継続している。そこで、センター内に平成14年9月事故予防ハウスを設置し、センター見学者や受診者への事故予防教育の場として利用している。</p> <p>また、2市の協力を得て事故サーベイランス事業をH13.11より継続実施し、不慮の事故発生状況や医療機関受診等の情報を得て2市に還元している。事故サーベイランス事業で得た情報等を利用して保健医療専門家向けの事故予防研修会や一般向けの事故予防シンポジウムを実施してきた。</p> <p>その他、依頼により事故予防の健康教育や事故予防啓発のためのリーフレット等の作成を実施している。</p>																												
<p>活動内容</p>	<p>1. 子ども事故予防ハウスの運営</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">事故予防ハウス利用者数</td> <td style="text-align: center;">一般</td> <td style="text-align: right;">55名</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">専門家等</td> <td style="text-align: right;">352名</td> <td style="text-align: right;">計 407名</td> </tr> </table> <p>2. 事故予防に関する教室等</p> <p>(1) 平成19年2月13日の愛知の子ども健康フォーラム 子どもの事故予防コーナー 一般対象</p> <p>(2) 事故予防に関する教室、研修会講師等</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・外来患者対象の救急蘇生法の実施</td> <td style="text-align: center;">8回</td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">31名</td> </tr> <tr> <td>・子育てネットワーカー養成講座</td> <td style="text-align: center;">2回</td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">100名</td> </tr> <tr> <td>・のびのびくらぶ(朝日新聞厚生事業団)</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">25名</td> </tr> <tr> <td>・託児ボランティア養成講座</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: right;">30名</td> </tr> <tr> <td>・知多市ファミリーサポート研修会</td> <td style="text-align: center;">2回</td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">36名</td> </tr> </table> <p>3. ビデオ、パネルを媒介とした事故予防情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知多市健康・福祉フェスティバル ・安城市健康フェア <p><u>雑誌・テレビ等取材</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育テレビ放送番組「あいちっ子」あぶないよ気をつけて～子どもの目線から～ <p>4. 外来受診者から事故体験の募集</p> <p>5. 保健医療相談</p> <p>昼間の保健医療相談では年間26件と非常に少なく、夜間の時間外電話相談では746件(時間外電話相談の11.5%)で、事故内訳は誤飲事故が圧倒的に多く、次いで転落事故、転倒事故が続いている。誤飲事故の内訳は文具類、医薬品、化学製品(化粧品等)が多かった。</p>	事故予防ハウス利用者数	一般	55名			専門家等	352名	計 407名	・外来患者対象の救急蘇生法の実施	8回	計	31名	・子育てネットワーカー養成講座	2回	計	100名	・のびのびくらぶ(朝日新聞厚生事業団)			25名	・託児ボランティア養成講座			30名	・知多市ファミリーサポート研修会	2回	計	36名
事故予防ハウス利用者数	一般	55名																											
	専門家等	352名	計 407名																										
・外来患者対象の救急蘇生法の実施	8回	計	31名																										
・子育てネットワーカー養成講座	2回	計	100名																										
・のびのびくらぶ(朝日新聞厚生事業団)			25名																										
・託児ボランティア養成講座			30名																										
・知多市ファミリーサポート研修会	2回	計	36名																										

	<p>6. 子どもの事故サーベイランス事業（平成14年度より開始）</p> <p>知多市 期間：平成19年4月～平成20年3月</p> <p>1歳6か月 健診受診数 813名 回収数 773名（回収率95.1%）</p> <p>3歳児 健診受診数 823名 回収数 795名（回収率96.6%）</p> <p>碧南市 期間：平成19年4月～平成20年3月</p> <p>1歳6か月 健診受診数 717名 回収数 713名（回収率99.4%）</p> <p>3歳児 健診受診数 751名 回収数 745名（回収率99.2%）</p> <p>知多市と碧南市の乳幼児健診を利用して子どもの事故予防事業の構築に対し連携している。内容としては事故サーベイランス事業を協同して実施している。それぞれの保健センターに情報還元を実施した。各市ではこれに基づいて、家族への啓発活動を実施している。</p> <p>7. 乳幼児事故予防対策委員会への出席</p> <p>8. 学術活動</p> <p>愛知県公衆衛生研究会</p> <p>演題名：事故の重症度と家庭での事故予防策との関連</p>
<p>評価方法</p>	<p>子どもの事故予防ハウスの利用者数</p> <p>事故予防教室の開催回数と参加者数</p> <p>子どもの事故サーベイランス事業の集計状況</p>
<p>評価</p>	<p>事故予防ハウスが常時開設出来ない状況が継続し、見学希望者には保健室に声をかけてもらい保健師が対応をしている。事故予防ハウスの見学者は意識の高い人が多く、熱心に見学される方が多かった。事故予防教室は、周知方法を近隣市町の広報掲載等からの予約制とし各回の参加があり周知方法については今後も継続していきたいと考える。参加者からの質問等も多く、時間が延長することも多かったため、年度途中より開催時間を早め参加者の疑問等に丁寧な対応ができるようにした。</p> <p>子どもの事故予防に関しては、全般に意識が低い現状がある。積極的なPRが必要と感じている。</p> <p>寄せられた事故体験は重傷度の高い事故につながりやすい出来事が多く、事故が誰でも起こりうるということを改めて感じさせられる機会になっている。</p> <p>サーベイランス事業は3月までの集計では、事故発生場所は圧倒的に家庭内が多く、起こっている事故は1歳6か月までは誤飲、3歳までは転落、転倒が多く発達と共に事故の種類は変化していた。現在の事故サーベイランス事業を通じて情報還元の方法について検討し、地域が取り組みやすい事故予防活動づくりが必要と感じている。</p> <p>子どもの事故については年齢と事故が大きく関連しており、機会を捉えて情報を伝えていく必要がある。子ども事故予防ハウスの利用方法など検討し、子どもを持つ家族が事故予防を自然に取り組みめるような活動をしていく必要がある。院外での健康教育にも今後も積極的に対応していきたい。</p> <p>センター内で医療部門と連携して院内理解を深めていく必要がある。事故予防ハ</p>

	<p>ウスについては実践教育の場として運営方法や開室日数を増加していけるようにしたい。子どもに安全な環境を整備していけるように子育てに関わる方達と連携してホームページに事故予防に関する情報を充実させていきたいと考えている。</p> <p>二市で事故サーベイランス事業を実施しているが、ここで得られた情報を活用して情報サービス事業を充実させ、事故予防策の検討を継続的に実施し、有効な対策を作成していきたいと考えている。事故サーベイランス事業を簡素化し、継続的な事業として実施していける形を検討したい。</p>
--	---

活動名	13. ボランティア活動
これまでの取り組み	<p>子どもや家族が安心して治療ができ、また生活の質の向上を目指し、療養環境を充実させる1つとしてボランティア活動を導入している。平成13年度はボランティア受入要領を策定し、8月から募集した。ボランティア委員会を設置し、センター登録者を自主グループ（パウエンプラッツ）として立ち上げ、活動も開始された。平成14年度はボランティア希望者を対象とした研修及び質の向上のため既登録者を対象とした研修を開催した。平成15年度にはボランティア希望者と既登録者の交流を図るため、交流会を含めた希望者と既登録者が一同に会した研修に形態を変えて実施した。平成16年度は近隣地域の社会福祉協議会に呼びかけ公開講演会を開催した。</p>
活動内容	<p>1. ボランティア受入状況</p> <p>(1) ボランティア募集：あいち小児センターホームページにて募集、近隣社会福祉協議会等にポスターやチラシで募集</p> <p>(2) ボランティア受け入れ状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録者数：H19年度新規登録者29人 全登録者数75人 ・団体登録数：2団体（小児の森プロジェクト、日本ホスピタルクラウン協会） ・ボランティア活動時間：延活動者433人、延活動時間1021時間 <p>2. ボランティア活動内容（Bauen Platzとしてグループ化）</p> <p>外来ふれあい活動：プレイコーナー活動</p> <p>病棟ふれあい活動：学習ボランティア、イベント</p> <p>環境さわやか活動：生花の活け込み、園芸、季節の飾りつけ、ミニ水族館活動</p> <p>こども図書活動：お話し会（月2回）</p> <p>どんぐりハウス：リビングの生花の活け込み</p> <p>事故予防ハウス：受付、説明</p> <p>イベント企画協力：行事へ参加</p> <p>自主グループ活動：21世紀愛知の子ども健康フォーラム協力</p> <p>アチェメックの森(小児の森)プロジェクト：センター隣の森の小径づくりの会を4回開催</p> <p>ホスピタルクラウンによる病棟訪問（月2回）</p> <p>3. 教育・研修</p> <p>(1) 平成19年度ボランティア研修会（年3回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演（新規登録希望者と既登録者一緒に受講） ・交流会（新規登録希望者と既登録者の交流） ・初回参加者オリエンテーション <p>ボランティア活動内容紹介、感染症問診票にて各種感染症への注意・検診の勧め、ボランティア保険講演内容</p> <p>H19.5.19（土）ボランティアとこころの健康 臨床心理士（参加者12名）</p> <p>H19.7.6（金）外来・病棟で出会う子ども達 看護師（参加者12名）</p> <p>H19.9.6（木）わくわくチーム医療をめざして 保育士（参加者16名）</p> <p>4. 情報サービス</p> <p>ホームページにボランティア募集と研修、オリエンテーション案内の掲載</p> <p>地域社会福祉協議会へのボランティア募集、チラシ配布、ボランティア活動報告集「ACHEMECの仲間たち - 子どもと家族の心に安心と安らぎを」の発行</p>

<p>評価方法</p>	<p>1. 登録者数、活動時間 延活動者数、活動時間、継続者数、内容の評価 2. 自主グループ化の評価：自主グループ活動の広がり、ミニグループの組織化 3. アンケート調査</p>
<p>評価</p>	<p>1. ボランティア登録者数など 平成19年度の新規登録者数は、29人で平成18年度より少なくなっている。実活動者数は、人、延活動者数は433人で平成18年度に比較して延活動者数は減少している。 活動時間は平成19年度は1021時間で、18年度と比較すると減少した。活動別の時間数では登録人数の減少に伴い、外来ふれあい活動の時間数が減少している。 個別学習ボランティアの要望に対しては、個別学習ボランティアの導入・運用に関するフローチャート、学習ボランティア依頼表を病棟スタッフと共有化しコーディネートを実施した。</p> <p>2. 自主グループ化について 独自のホームページを作成しイベント情報や掲示板運営などを運営 baubau HP：http://www5d.biglobe.ne.jp/baubau/ 図書室のボランティアはメーリングリスト作成し、月に2回の活動に当たっての連絡等は図書ボラグループ内で行うようにしている。</p> <p>3. 課題 年々、新規登録者数の減少、全活動者数の減少している状況である。 ボランティア募集の方法や活動継続に向けてセンター内体制を検討していく状況に迫られている。 外来プレイコーナーは、曜日によりボランティアさんがいる時といない時の片寄りもあり、活動人数の低下によりボランティア同士がセンターで顔を合わせる機会は少なく、BAUメーリングリストによる連絡は実施されているが、ボランティア同士の交流については一部では実施できているが、全体的にはなかなか難しい状況となっている。 今後も引き続き図書ボランティア活動のように活動場所毎のグループ化を図っていき、横のつながりが出来るような支援が必要である。センターとグループとの連絡をスムーズに図っていくことやセンター職員へのボランティア活動への理解を深めることの必要性を感じる。 外来を受診する子どもや家族から、ボランティアがいることによる安心感、療養環境改善への感謝の声が届いている。ボランティアが継続的に活動ができるような環境整備を継続的に実施していけるようセンターとグループとの連絡をスムーズに図っていくことや継続してセンター職員へのボランティア活動への理解を深めることへの周知等を実施していく必要がある。</p>

活動名	14-1. 国際母子保健医療活動
これまでの取り組み	<p>国際母子保健医療活動では、JICA（独立行政法人国際協力機構中部国際センター）において平成13年度新規の研修コースとして設立されたアフリカ地域国別研修「地域母子保健」コースに設立当初から関わり、プログラム企画立案から、募集要項案作成への助言、研修対象者の選定、研修指導評価等技術協力、当センターで実施する講義の会場設営や連絡調整の役割を担っている。</p> <p>その他、国立国際協力医療センターのカウンターパート研修員研修、名大のヤング・リーダーズ・プログラムなどを受入れ、日本の小児医療保健に関する講義や当センターの活動概要等についての紹介をしている。</p>
活動内容	<p>1. ヤング・リーダーズ・プログラム （名古屋大学大学院医学系研究科・医療行政修士コース 留学生） 平成19年6月12日（火）～6月15日（金） 研修生15名 〔研修内容〕当センターの診療科（小児外科、泌尿器科、感染症、循環器、腎臓科、アレルギー科、耳鼻咽喉科、小児精神科）について、日本の小児保健、保健師の活動、大府養護学校との交流</p> <p>2. 「平成19年度アフリカ地域 地域母子保健行政」コース JICA 研修 平成19年10月3日（水）～11月11日（日） 研修生11名 （エチオピア1名、ナイジェリア4名、南アフリカ3名、タンザニア1名、ジンバブエ2名） プログラム立案・研修評価等技術協力、会場設営、連絡調整等を担当。 〔研修内容〕 基本的コンセプト：日本の最先端技術、現在の保健行政システムの紹介のみならず、日本が短期間に母子保健指標を改善してきた歴史・その要因・プロセスを紹介、指導することに重点をおく。</p> <p>プロジェクトサイクルマネジメントの概要、ジョブレポート発表会 基礎講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の衛生行政とその歴史、日本の医療制度・世界の公衆衛生の流れ他 母子保健 ・保健所と市町村保健センターの役割・母子保健と統計学 ・周産期保健（周産期ネットワークシステム、日本の助産院・地域産婦人科医の役割、母子保健と母子健康手帳、母子保健に関わる国際協力の実際など） ・小児保健（新生児の医療、乳児健診の方法と健診マニュアル、小児保健における保健師の役割、口腔衛生と小児保健、日本における小児歯科、予防接種の歴史と背景、小児の感染症、日本の小児保健、養護学校見学） <p>環境衛生・食品衛生、上下水道の果たす役割、感染症サーベイランス 学校保健・日本の学校保健制度とその歴史、学校検診システム、学校医について 給食の役割とその歴史、学校心臓検診、学校給食の現場 アクションプランの作成・発表</p>

<p>評価方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 研修「平成 19 年度アフリカ地域母子保健行政コース」について JICA Questionnaire (研修目的、カリキュラム構成、実施方法について研修員が記入) による評価 ・ その他の研修受入れについて 海外専門家との人的交流・派遣に関する定量的評価
<p>評価</p>	<p>国際母子保健医療活動では、JICA 研修「アフリカ地域母子保健行政コース」を平成 13 年度から開始し、今年度は 7 回目の実施で、本コースは今回で終了となった。</p> <p>研修員の評価では、プログラム等の完成度が高く、研修員の高い満足度が得られた。</p> <p>特に好評であったプログラムは、アクションプラン作成指導 JOICEP 思春期のリプロダクティブヘルスで、ロールプレイで問題を具体化し、実際の問題解決への道筋を見つける形で、アフリカの事情に精通した講師陣からの適切なアドバイスがあり、活発な意見交換がされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策について：研修員の関心が高く、特にサーベイランスシステムの運用状況が参考になったとの意見が合った。 ・ 愛知県の母子保健対策について：家庭訪問が研修員の国のアウチリーチプログラムと似ていることから質問が集中。未熟児の家庭訪問については、多くの研修員が自国で実践したいと好評であった。 ・ 途上国での学校保健活動の実践について：研修員同士のディスカッションが有意義であった。

活動名	14 - 2 . 国際学校保健研修コース
<p>これまでの 取り組み</p>	<p>【集団研修「学校保健」コース新設の経緯と当センターの実績】</p> <p>途上国では学校保健（保健室の併設、衛生教育・HIV/AIDS 教育等の実施、子どもの健康管理、安全な水の確保、学校給食等）に対する関心は高いものの、その実施は十分ではない。独立行政法人国際協力機構（JICA）で実施している途上国の関係者を日本に招き、わが国の技術や手法を研修して自国の発展に寄与するいわゆる“本邦研修”の一つとして、平成 18 年度より集団研修「学校保健」コースを新設し、その企画・実施を当センターに依頼した。このコースでは、学習環境を改善することで、子どもの健康を確保し、就学率の拡大と中退者の防止を図ることを最終的な目標としている。平成 18 年度は、アジア、アフリカ、大洋州から 12 名の研修員を向かえて研修を実施するとともに、国際研修を契機に当センターと教育機関とのより具体的な連携を目指した活動に取り組んだ。</p>
<p>活動内容</p>	<p>1. JICA 本邦研修事業：平成 19 年度集団研修「学校保健」コースの実施</p> <p>(1) コース名 和文：平成 19 年度（第 2 回）課題別 学校保健 英文：School Health, Fiscal Year 2007</p> <p>(2) 研修期間：2007 年 5 月 27 日（月）から 2007 年 7 月 10 日（土）まで</p> <p>(3) 研修員と参加国（13 名） ベナン、カメルーン、コートジボワール、ガーナ、ラオス（4 名）、モルディブ、ニジェール、ツバル、ザンビア（2 名）</p> <p>(4) コース目標 日本の学校保健制度や学校における取り組みを理解し、自国の学校保健システム改善に資する政策・制度・改善に係る示唆を得て、自国内の関係者に普及させることを目的とする。 到達目標（研修の成果） 学校保健の現状認識 - 自国の学校保健に係る問題点・課題を明確化する。 現場体験に基づいた学校保健の考察 - 日本の実例を参考にしながら、学校保健システムの改善方法について、自国の状況に即して考察する。 学校保健システム構築への展望 - 自国における学校保健システムの改善に資する政策・制度・実践計画の策定に係る方向性・知識の普及方法を設定する。 学校保健の普及活動 - 研修で学んだことやアクションプランについて、自国で普及活動を行う。</p> <p>(5) 実施日程：別添表参照</p> <p>(6) 県内の学校保健関係者との連携強化 研修カリキュラムの設定にあたっては、以下の機関の協力を得た。 ・県内行政機関 愛知県教育委員会健康学習課、愛知県健康福祉部健康対策課、豊田市保健所</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内教育機関 愛知県総合教育センター、愛知教育大学、愛知みずほ大学、愛知学院大学 ・ 県内学校現場 一宮市立朝日西小学校、知多市立新知小学校、豊田市立童子山小学校、小牧市立北里中学校、蟹江町立蟹江中学校、七宝町立秋竹小学校、東海市立横須賀小学校、西尾市立矢田小学校、美浜町立野間中学校、 愛知県立大府養護学校、愛知県立ひいらぎ養護学校 ・ 県内その他機関 愛知県医師会、愛知県歯科医師会、愛知県衛生研究所、愛知県環境調査センター ・ 県外関係機関 東京大学大学院教育学研究科、東京大学大学院医学系研究科 財)予防医学事業中央会、財)日本寄生虫予防会、ジョイセフ 広島県芸北地域保健所、多治見市立市之倉小学校 <p>2. 国際学校保健セミナーの開催</p> <p>2007年6月9日(土)10:00~16:00</p> <p>あいち小児保健医療総合センター 地下大会議室</p> <p>上記研修コースのジョブレポート報告会を兼ねた公開セミナーで、各国の学校保健の現状について報告された。同研修コースの講師などの専門家(医師、歯科医師、保健師、教員ほか)や、県内の学校で学校保健に従事している養護教諭、さらに愛知教育大学養護教育過程の学生など70名が参加し、有意義な討論や質疑応答が行われた。</p>
--	---

研修カリキュラム (School Health, Fiscal Year 2007)

		研修方法	研修項目	研修内容とねらい	所属	職名	講師氏名		
オリエンテーション		オリ	コースオリエンテーション	研修コースの目的と目標、内容の確認と意識の共有。	ACHEMEC	室長	山崎 嘉久		
自国の現状の把握と分析		レポート	レポート作成	研修員の現在置かれている状況、課題の整理と研修コースへの動機付け。					
		レポート	レポート発表	参加研修員各々の学校保健の状況の発表とそれをもとにした研修員、日本の専門家や学生との討論	ACHEMEC				
		講義	P C Mの理解と応用	アクションプラン作成に向けてのP C Mの理解。	国立看護大学校	教授	熱田 泉		
教育概論		教育システム	講義	日本の学校教育制度一般(小・中・高校)・障害児	愛知県立大学人間科学部	教授	横田 雅史		
		教育行政システム	講義	地方教育行政	地方の教育行政機関(教育委員会)の業務と役割、予算、人事等のしくみ。教員の実態。	愛知県教育委員会 学習教育部 健康学習課	主査	古井 成之	
		人材育成	講義	現職教員研修(一般・保健主事・養護教諭)	現職教員への各種研修内容とその制度の紹介。研修の計画策定から実施、評価までの流れと方法。日本の保健関連の教科書の紹介。	愛知県総合教育センター	研修部長	河合 伸樹	
			実習	研修体系の編成	教員に対する研修計画作成のための研修体系編成の方法と自国の現状に沿った研修体系マトリクス作成の実習。	愛知県総合教育センター	研修部長	河合 伸樹	
保健概論		小児保健医療	講義	日本の小児保健医療事情	ACHEMEC	センター長	長嶋 正實		
学校保健概論		学校保健システム	講義	日本の学校保健システム	学校保健の目的、領域、関係者等日本の学校保健システムの概要とその特徴および課題。	文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課	専門官	岡田 就将	
		統計	講義	学校保健統計(現状と今後の課題)	学校保健システムから求められる統計システムの紹介、学校検診のデータの集計やサンプリングの方法。	愛知県教育委員会 学習教育部 健康学習課	指導主事	鳴澤 由紀子	
		養護教諭	講義	養護教諭成立の歴史(学校看護師から養護訓導へ)	養護教諭誕生前の学校保健を取り巻く状況、学校保健関係者とその活動。	岐阜大学地域科学部	教授	近藤 真庸	
			講義	養護教諭成立の歴史(養護訓導から養護教諭へ)	養護教諭制度制定の経緯。制定までの手続き、関係者への働きかけ、留意点、困難等。	元愛知教育大学、元弘前大学	教授	天野 敦子	
			講義	養護教諭養成課程	養護教諭に必要な資格とその取得方法、教員養成カリキュラム。	元愛知教育大学、元弘前大学	教授	天野 敦子	
			講義	日本の養護教諭と保健室(その目的と機能)	学校内に設置された保健室の紹介と養護教諭の業務。	岐阜大学地域科学部	教授	近藤 真庸	
			視察	児童・生徒への個別の保健指導	3グループに分かれて保健室を1日訪問し、養護教諭の保健室内外での日常業務を体験。養護教諭との意見交換。	・豊田市立童子山小学校 ・小牧市立北里中学校 ・蟹江町立蟹江中学校			
		学校医	講義	日本の学校医制度	学校医制度の歴史と、学校医の役割。	東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻	教授	衛藤 隆	
		学校薬剤師	講義	学校環境衛生と薬剤師業務	学校薬剤師の役割。環境衛生管理のための学校での検査業務と県レベルでの集計、そのデータの活用方法。	愛知県教育委員会 学習教育部 健康学習課		鈴木 晴雅	
		学校歯科医	講義	学校保健における歯科医の役割	学校保健における歯科医の役割。学校でのフッ素洗口と歯科医の助言。	愛知県健康福祉部健康対策課 一宮市立朝日西小学校		井後 純子	
		学校保健組織活動	講義	学校保健委員会活動	学校保健委員会活動内容と関係者の役割	東京大学大学院教育学研究科総合教育科学専攻	教授	衛藤 隆	
			講義	P T A活動	全国、愛知県および一宮市P T A連合会の組織概要および一宮市南部中学校での具体的なP T A活動内容。	前南部中学校 P T A会長		松井 達朗	
		保健学習		講義	教科学習としての保健体育活動	授業科目としての体育の意義、目的とカリキュラム内容	愛知県教育委員会体育スポーツ課	主査	太田 秀樹
				視察	体育授業	体育の授業の視察	知多市立新知小学校	教頭	磯部 啓二
視察	学級担任による健康指導学習			学級担任が授業の中で子どもの自己チェック表を用いて生活習慣改善。そのツールの開発と教授法	愛知学院大学歯学部口腔衛生学 多治見市立 小学校	教授	中垣 晴男		
講義	教育専門家による保健学習の指導法と実際			保健学習の効果的な指導方法。授業風景のビデオを利用して、指導ポイントを解説。	岐阜大学地域科学部	教授	近藤 真庸		
講義	保健専門家による保健教育とその手法			患者期のリプロダクティブヘルス。患者期の児童・生徒に対する保健教育とその手法、教材の効果的な活用方法。	ジョイセフ		浅村 里沙		
講義	保健師による健康教育活動			保健師が学校を訪問して行う性・HIV/AIDS・STD教育の実際	豊田市保健所 感染症予防課		竹内 清美		
視察	健康集會活動			健康集會活動の見学。その内容と関係者の役割。養護教諭との討論。	西尾市立矢田小学校	養護教諭	佐藤		
視察	健康推進学校			健康推進学校とは何か、実際の活動の紹介。学校での環境管理体制、日々の児童・生徒の行動、態度。	浜浜町立野間中学校 愛知県健康学習課	教頭	中山		
学校保健各論	講義			救急処置	身の回りのものを利用した簡単な有効な応急処置法の紹介。	愛知教育大学	准教授	藤井 千恵	
	講義			健康観察	日常の健康観察の重要性と留意点、児童・生徒、担任、養護教諭の役割。	愛知教育大学	准教授	藤井 千恵	
	講義	学校検診システム全般・事後評価管理指導表・学校心臓検診	学校検診の目的と全体像。学校検診管理指導表。学校心臓検診の実状と課題	ACHEMEC	センター長	長嶋 正實			
	講義	学校検診(内科検診)の実際とその意義	内科検診風景のビデオを利用した学校での内科検診の実際。	愛知県医師会	理事	稲坂 博			
	講義	学校歯科検診	学校歯科検診から得られたデータの集計とその活用方法。	愛知県健康福祉部健康対策課	総務専門員	井後 純子			
感染症対策(地域連携)		講義	日本の結核対策 TB control in Japan	世界の状況と比較して日本の結核対策の歴史と現状。	愛知県衛生研究所	所長	増井 恒夫		
		視察	環境教育	あいち環境学習プラザの視察とその役割。身の回りの環境問題について、小中学生に実施する体験型環境教育の紹介。	愛知県環境調査センター				
		講義	日本の寄生虫対策	わが国の学校内外における寄生虫対策の歴史と実績。	(財)予防医学事業中央会 (財)日本寄生虫予防会	常務理事	山内 邦昭		
学校給食		講義	日本の学校給食システム	学校給食システム、給食に含まれる栄養、衛生管理。	愛知県教育委員会 学習教育部 健康学習課	主査	浅田 由美		
		視察	学校給食の現場での運用	学内調理、生徒の配膳の様子。衛生面への配慮。	愛知県教育委員会 学習教育部 健康学習課	主査	浅田 由美		
今日的課題		講義	スクールカウンセラー・不登校	学校におけるスクールカウンセラーの役割。校内暴力への対応。	ACHEMEC	臨床心理士	海野 千代子		
養護学校		講義	日本の養護学校成立の歴史的考察	わが国における明治時代から養護学校(盲学校、聾学校等)が現場の要望やニーズに応じて成立した背景と経緯。	愛知県立大府養護学校	校長	松井 通記		
		視察	病弱養護学校と特別支援教育	病弱養護学校の実態と、医療機関との連携。	愛知県立大府養護学校	教頭	松井		
		視察	養護学校での学校保健活動(知的障害・肢体不自由等)	知的障害児等を対象とした養護学校の視察	愛知県立ひいらぎ養護学校	教頭	青木 廣康		
世界の学校保健活動		講義	途上国での学校保健活動の実践	途上国におけるHealth Promoting Schoolの紹介。	東京大学大学院医学系研究科	講師	神馬 征峰		
		講義	途上国での学校保健活動の実践	途上国の学校保健システムを改善するプロジェクトの経験。	広島県保健所	保健師	野澤 幸江		
		表紙	JICA学校保健関連プロジェクト	JICAが実施する基礎教育および保健医療分野での協力方針と学校保健関連の取り組みに関する紹介	JICA人間開発部 母子保健チーム	チーム長	小林 尚之		
		討論	ケーススタディー(研修員各々の取り組み)	各国研修員の学校保健の取り組みと課題の紹介。それをもとに各国への適応、応用方法を討論	研修員		-		
アクションプラン		討論	A P作成指導	各国の学校保健の目的、領域、関係者等に関する問題提起。アクションプラン策定内容、考慮すべき点等の助言	ACHEMEC	室長	山崎 嘉久		
		実習	アクションプラン作成	日本や各国の学校保健の経験や知識をもとに、自国の学校保健の改善案を作成	研修員		-		
		討論	アクションプラン発表	日本での研修を通し学んだこと、帰国後の活動計画を発表。参加者からのコメント。	ACHEMEC	室長	山崎 嘉久		

研修日程 (School Health, Fiscal Year 2007)

月日	時間	形態	研修内容	講師/同行者		
				所属先	役職	氏名(敬称略)
5/27	日		来日			
5/28	月		ブリーフィング			
5/29	火		移動			
5/30	水	10:00 - 12:00	オリ	生活オリエンテーション		
		13:30 - 17:00	オリ	開講式・プログラム/コースオリエンテーション		
5/31	木	9:30 - 16:00	講義	日本語		
6/1	金	9:30 - 12:00	講義	Project Cycle Management	国立看護大学校	教授 熱田 泉
		13:30 - 17:00	講義	Project Cycle Management	国立看護大学校	教授 熱田 泉
6/4	月	9:30 - 12:00	講義	日本の学校教育制度	みずほ大学	教授 横田 雅史
		13:30 - 16:00	講義	日本の小児保健医療事情	あいち小児保健医療総合センター (ACHEMCC)	センター長 長嶋 正實
6/5	火	9:30 - 12:00	講義	地方教育行政	愛知県教育委員会 健康学習課	主査 吉井 成之
		13:30 - 16:00	講義	日本の学校保健システム	文部科学省 スポーツ・青少年局学校健康教育課	専門官 岡田 就将
6/6	水	9:30 - 12:00	講義	学校環境衛生と薬剤師業務	愛知県教育委員会 健康学習課	主査 鈴木 晴雅
		13:30 - 16:00	講義	学校保健統計 (現状と今後の課題)	愛知県教育委員会 健康学習課	指導主事 嶋澤 由紀子
6/7	木	9:30 - 12:00	講義	日本の養護教諭と保健室 (その目的と機能)	岐阜大学 地域科学部	教授 近藤 真庸
		13:30 - 16:00	講義	養護教諭成立の歴史 (学校看護師から養護訓導へ)	岐阜大学 地域科学部	教授 近藤 真庸
6/8	金	9:30 - 12:00	講義	養護教諭成立の歴史 (養護訓導から養護教諭へ)	元愛知教育大学	教授 天野 敦子
		13:30 - 16:00	講義	養護教諭養成課程	元愛知教育大学	教授 天野 敦子
6/9	土	10:00 - 16:00	討論	ジョブレポート発表会		
6/12	火	9:30 - 12:00	講義	Project Cycle Management	国立看護大学校	教授 熱田 泉
		13:30 - 17:00	講義	Project Cycle Management	国立看護大学校	教授 熱田 泉
6/13	水	9:30 - 11:30	講義	教育専門家による保健学習の指導法と実際	岐阜大学 地域科学部	教授 近藤 真庸
		13:30 - 16:00	講義	教育専門家による保健学習の指導法と実際 (授業体験)	岐阜大学 地域科学部	教授 近藤 真庸
6/14	木	9:30 - 12:00	討論	ケーススタディ	あいち小児保健医療総合センター	総合診療部長 山崎 嘉久
		14:00 - 16:00	討論	アクションプラン作成指導	あいち小児保健医療総合センター	総合診療部長 山崎 嘉久
6/15	金	9:00 - 11:30	視察	教科学習としての保健体育活動	知多市立新知小学校	教頭 橋部 啓二 教務主任 橋部 正司
		14:00 - 16:00	講義	教科としての体育活動概論	愛知県教育委員会 体育・スポーツ課	主査 太田 秀樹
6/18	月	10:00 - 15:30	グループ 視察	児童・生徒への個別の保健指導	豊田市立童子山小学校	養護教諭 佐々木 のりこ
					小牧市立北里中学校	保健主事(養護教諭) 児玉 和江
					響江町立響江中学校	養護教諭 市川 緑
6/19	火	9:00 - 12:30	視察・講義	学級担任による健康指導学習	愛知学院大学 歯学部	教授 中垣 晴男
					多治見市立市之倉小学校	校長 矢野 智
6/20	水	9:30 - 12:00	講義	学校検診システム全般	あいち小児保健医療総合センター	センター長 長嶋 正實
		13:35 - 16:00	講義・視察	日本の養護学校成立の歴史的考察、病弱養護学校と特別支援教育	大府養護学校 A	校長 松井 通記
6/21	木	9:30 - 11:30	講義	P T A 活動	南部中学校 P T A 会	元会長 松井 達朗
		13:30 - 16:00	講義・視察	日本の結核対策	愛知環境衛生研究所	所長 増井 恒夫
		16:00 - 16:30	視察	環境教育	愛知環境調査センター 企画情報部	主任主査 小島 郁夫
6/22	金	9:30 - 12:00	講義	現職教員研修 (一般・養護教諭)	愛知県総合教育センター	研修部長 河合 伸樹
		14:00 - 16:00	講義	学校医による学校検診の実際	愛知県医師会	理事 稲坂 博
6/25	月	9:30 - 12:00	講義	保健専門家による保健教育とその手法	(財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団)	アドバイザー 吉留桂
		13:30 - 16:00	講義・視察	日本の寄生虫対策	(財)日本寄生虫予防会	常務理事 山内 邦昭
6/26	火	10:00 - 11:30	表敬	JICA学校保健関連プロジェクト	(独)国際協力機構(JICA) 人間開発部	チーム長 小林 尚之
		13:30 - 16:00	講義	途上国における学校保健活動の実際	東京大学大学院医学系研究科	教授 神馬 征峰
6/27	水	9:30 - 12:00	講義	日本の学校医制度	東京大学大学院教育学研究科	教授 衛藤 隆
		13:30 - 15:30	講義	学校保健委員会	東京大学大学院教育学研究科	教授 衛藤 隆
6/28	木	10:00 - 10:50	講義	日本の学校給食システム	愛知県教育委員会 健康学習課	主査 浅田 由美
		10:50 - 13:30	視察	学校給食の現場での運用	海部郡七宝町立秋竹小学校	校長 佐藤 修康
		15:00 - 17:00	討論	研修体系の編成	愛知県総合教育センター	研修部長 河合 伸樹
6/29	金	8:00 - 11:30	視察	学校歯科保健活動・フッ素洗口	一宮市立朝日西小学校	校長 平岩 久直
			講義	学校保健における歯科医の役割・学校歯科検診	愛知県健康福祉部 健康対策課	総括専門員 井後 純子
6/30	土	10:30 - 12:00	視察	健康集会活動(早寝、早起き、朝ご飯) 10:15に到着	西尾市立矢田小学校	教頭 養護教諭 森 佐藤
		9:30 - 11:30	討論	ケーススタディ・アクションプラン作成指導	あいち小児保健医療総合センター	総合診療部長 山崎 嘉久
7/2	月	9:30 - 11:30	討論	保健師による健康教育活動	豊田市保健所 感染症予防課	課長 竹内 清美 保健師 加藤 崇法
		13:30 - 15:30	講義	健康推進学校、給食会食、保健集会	美浜町立野間中学校	校長 水田 哲夫
7/4	水	9:30 - 12:00	討論	ケーススタディ・アクションプラン作成指導	あいち小児保健医療総合センター	総合診療部長 山崎 嘉久
7/5	木	13:30 - 16:00	講義	途上国での学校保健活動の実際	広島県芸北地域保健所 保健課	保健師 野澤 幸江
		9:30 - 11:30	視察	養護学校での学校保健活動(知的障害・肢体不自由等)	愛知県立ひいらぎ養護学校	教頭 青木 廣康
7/6	金	14:00 - 16:00	講義	健康観察 / 救急処置	愛知教育大学 教育学部	准教授 藤井 千恵
		9:30 - 16:00	実習	アクションプラン準備	-	-
7/8	日	10:00 - 16:00	討論	アクションプラン発表会		
7/9	月	10:00 - 14:00		評価会・開講式・歡送会		
7/10	火			帰国		

活動名	15. 保健医療情報サービス													
これまでの取り組み	<p>母子保健情報サービスとして、地域の保健・医療・福祉・教育等関係者や一般県民に対して、パンフレット、ホームページ、地域のイベントへの展示などを利用して情報提供（子どもの虐待、子どもの事故予防、アレルギー、予防接種、遺伝など母子保健に関すること）を行っている。</p> <p>なお、広報委員会の事務局であり、当センターのホームページについて、医療部門を始めとするセンターの案内やその他情報の新規・更新等、コンテンツ管理の役割を担っている。また、あいち小児保健医療総合センターだより「アチェメックの風」を作成し、当センターのPRに努めている。</p>													
活動内容	<p>1. ホームページの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを利用した母子保健情報の提供 ・ページ閲覧件数 2,626,553件（H19.4～H20.3）月平均 218,879件 ・ホームページによる情報サービス 年間の記事更新回数 52回 <p>2. 広報誌の発行</p> <p>あいち小児保健医療総合センターだより「アチェメックの風」 年4回発行（第13号～第16号）</p> <p>3. こども図書室の活動</p> <table border="1" data-bbox="432 1048 1307 1196"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年間利用者数</th> <th colspan="3">子ども</th> <th rowspan="2">保護者等</th> </tr> <tr> <th>就学前</th> <th>小学生</th> <th>中高生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,940人</td> <td>1,990人</td> <td>1,956人</td> <td>835人</td> <td>4,159人</td> </tr> </tbody> </table> <p>（1）図書貸し出し：貸出冊数 延べ3,579冊、1人平均 2.9冊</p> <p>（2）お話し会：年間 21回 参加者数 220人</p>	年間利用者数	子ども			保護者等	就学前	小学生	中高生	8,940人	1,990人	1,956人	835人	4,159人
年間利用者数	子ども			保護者等										
	就学前	小学生	中高生											
8,940人	1,990人	1,956人	835人	4,159人										
評価方法	<p>1. ホームページ利用者数測定と内容の調査</p> <p>2. 相談事業における「情報サービス」項目の実施件数と内容の調査</p>													
評価	<p>今年度のホームページの年間ページ閲覧件数は昨年度に比べ 52,905 件の減少であった。ホームページアクセス件数の月別ベスト 10 表では、平成 19 年度の特徴として、麻疹の全国的な流行の影響が「麻疹ワクチンに関するQアンドA」が4、5、6、7月、2、3月でベスト 10 に入っていた。また、昨年度と同様「診療科案内」、「診療科別医師名簿」などが上位を占めていた。また、「育児もしもしキヤッチからのメッセージ」、「泣きに関する心配事」など育児に関する情報の閲覧も多かった。</p> <p>子ども図書室は徐々に活動内容を広げ、おはなし会の開催など、ボランティアの協力を得て、かなり充実されてきたと思われる。</p>													

こども図書室の活動

外来通院や入院している子どものための図書室を設置し運営している。

1. こども図書室の活動実施内容

(1) 閲覧 時間：火曜日～金曜日 12:30～16:30 毎週土曜日 10:00～15:00

夏休み・冬休み期間中 10:00～15:00

対象者：病棟及び外来を利用している患児とその家族、当センター職員

(2) 貸出 対象者：病棟に入院している患児とその家族、当センター職員

(3) お話し会（ボランティアの協力を得て開催） 38回、参加者数 1,264人

ボランティア活動として、アトリウムや病棟でのお話し会も行われた。

2. こども図書室利用状況

(単位：人)

(1) 利用者数

開室日数 243日

	利用者数 計	子ども			保護者	
		就学前	小学生	中高生		
	8940	1990	1956	835	4159	
月別	H19年4月	572	114	148	44	266
	5月	482	114	93	57	218
	6月	771	187	172	61	351
	7月	928	193	218	80	437
	8月	1326	279	366	107	574
	9月	776	197	144	68	367
	10月	685	160	127	88	310
	11月	663	145	113	80	325
	12月	669	145	145	99	280
	H20年1月	643	138	131	53	321
	2月	533	114	98	36	285
	3月	892	204	201	62	425
曜日別	火曜日	1450	357	267	119	707
	水曜日	1858	444	360	169	885
	木曜日	1256	238	260	157	601
	金曜日	1571	335	341	173	722
	土曜日	2805	616	728	217	1244
1日平均利用者数	37	8	8	3	17	

(2) 図書貸出状況

1人1週間3冊まで

	貸し出し			
	人数	冊数	1人平均冊数	
月別	H19年4月	68	205	3.0
	5月	47	140	3.0
	6月	107	310	2.9
	7月	152	438	2.9
	8月	181	502	2.8
	9月	105	303	2.9
	10月	74	200	2.7
	11月	102	298	2.9
	12月	93	236	2.5
	H20年1月	71	202	2.8
	2月	113	312	2.8
	3月	141	433	3.1
計	1254	3579	2.9	
曜日別	火曜日	244	689	2.8
	水曜日	309	856	2.8
	木曜日	246	709	2.9
	金曜日	259	742	2.9
	土曜日	196	583	3.0
	計	1254	3579	2.9

(3) インターネット利用者

利用条件 1人1回30分まで

曜日別	利用者数
火曜日	192
水曜日	275
木曜日	215
金曜日	231
土曜日	284
計	1197
1日平均人数	4.9

16. 他施設との連携活動（含大府養護学校との連携）

(1) 地域支援活動・他施設との連携

保健センターや総合診療部を中心として実施した地域への支援・連携活動に対して総計名が役割を果たした。

平成19年度地域支援活動実績

職種	活動人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
医師	10	20	48	44	26	33	31	48	33	29	26	65	413
保健師	2	13	15	18	16	19	9	22	19	11	16	31	191
看護師	0	8	2	8	4	1	3	4	6	1	4	6	47
臨床心理士	2	1	10	14	9	10	8	10	12	3	7	5	91
言語聴覚士	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
視能訓練士	2	1	1	2	1	1	3	2	1	0	0	3	17
理学療法士 作業療法士	0	2	3	2	1	1	3	2	3	1	1	0	19
精神保健福祉士	1	3	2	5	1	2	3	4	6	1	4	2	34
保育士	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3
計	17	48	81	93	58	68	60	92	82	46	58	113	816

平成18年度地域支援活動実績（内訳その1）

- 地域や行政で主催される小児保健医療に関する専門家による会議への参加（委員としての活動など）
- 地域で主催される専門家や一般県民への研修会・講演会の講師等の活動
- 市町村の乳幼児健診に対する視力検査等の技術支援
- 地域での療育活動に対する技術支援

職種	活動人数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
医師	5	11	36	27	14	22	23	29	18	22	17	54	278
保健師	0	3	4	4	7	8	2	8	7	4	5	18	70
看護師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床心理士	0	0	2	3	3	4	3	4	4	1	1	0	25
言語聴覚士	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
視能訓練士	2	1	1	2	1	1	3	2	1	0	0	3	17
理学療法士 作業療法士	0	1	3	2	1	1	3	1	2	1	1	0	16
精神保健福祉士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保育士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	7	16	46	38	26	36	34	44	33	28	24	75	407

平成 18 年度地域支援活動実績（内訳その 2）

- e. 要保護児童対策のための地域ネットワークへの支援として、
 地域主催のケース検討会議への助言、または会議メンバーとしての参加や
 地域ネットワークメンバーが小児センターに来所して開催するケース検討会議
 への参加が行われている。

職種	活動人数												年間
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
医師	5	9	12	17	12	11	8	19	15	7	9	11	135
保健師	2	10	11	14	9	11	7	14	12	7	11	13	121
看護師	0	8	2	8	4	1	3	4	6	1	4	6	47
臨床心理士	2	1	8	11	6	6	5	6	8	2	6	5	66
言語聴覚士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
視能訓練士	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
理学療法士 作業療法士	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
精神保健福祉士	1	3	2	5	1	2	3	4	6	1	4	2	34
保育士	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	3
計	10	32	35	55	32	32	26	48	49	18	34	38	409

（ 2 ）大府養護学校との連携

大府養護学校との連携では、各種会議やケース検討会、学校行事への参加や学校健診への支援システム等で調整し、連携を図り、児童、生徒の病院の治療と学校生活上の問題に対応している。

1) 大府養護学校とあいち小児保健医療総合センターの連携会議

1. 運営協議会

目的・内容	学校及び病院における児童生徒の療育および教育に関する基本的事項の調整を図る。
開催	年度当初、年 1 回程度
学校参加者	校長、教頭、事務長、部主事
センター参加者	センター長、副センター長(2)、保健センター長、総合診療部長、内科部長、臨床検査部長、事務長、看護部長、薬剤部長
担当窓口	学校：教頭（松井）、センター：保健室長（山崎）

平成19年度：平成19年4月18日（水）

2. 医教連絡協議会

目的・内容	病院の医療方針、生活指導等について、また学校の指導方針、教育課程等について相互理解を図るため連絡・協議する。
開催	年2回程度
学校参加者	校長、教頭、事務長、部主事、総務主任、教務部主任、生徒指導部主任、保健体育部主任、進路指導部主任、地域支援部主任他
センター参加者	総合診療部長、医局代表、薬剤部長、事務長補佐、看護部副部長、保健室長補佐
担当窓口	学校：教頭（松井）、センター：保健室長（山崎）

第 1 回 平成19年5月15日（火）

3.連携協議会

目的・内容	病院（病棟）と学校との連携に係る課題解決を迅速かつ円滑にすすめ
開催	随時、センター研修室等
学校参加者	教頭、部主事
センター参加者	総合診療部長、看護部副部長
担当窓口	学校：教頭（松井）、センター：保健室長（山崎）

- 第1回 平成19年6月12日（火）
- 第2回 平成19年7月10日（火）
- 第3回 平成20年2月6日（水）

4.生活指導連絡協議会

目的・内容	児童生徒の学校、センターにおける生活上の課題や問題点について話し合い共通理解をはかり指導・支援に役立てるとともに、学校・センター間の連携を深める。
開催	全体を3回と、生徒指導部と1回計4回開催する。
学校参加者	部主事、生徒指導部職員代表、関係学級担任等
センター参加者	関係病棟看護師長、関係看護師若干名、医療社会事業担当、チャイルドライフ担当
担当窓口	学校：生徒指導部主任、センター：医療社会事業担当

- 第1回 平成19年5月11日（金）
- 第2回 平成19年10月12日（金）
- 第3回 平成20年1月18日（金）
- 第4回 平成20年2月8日（金）

5.入退院検討会

入院しながら学べる環境作りのため、大府養護学校に通う患児については、センター職員と学校教諭との間で入院時に（退院時は必要に応じて）検討会を実施し、また随時カンファレンスを開催している。

目的・内容	大府養護学校に通学する児童・生徒の入退院を組織的かつ円滑に進めるため、随時開催する。
開催	随時、センター研修室など
学校参加者	教頭、部主事、担任等
センター参加者	主治医、関係病棟看護師長、臨床心理士、医療社会事業担当
担当窓口	学校：教頭、センター：医療社会事業担当

- 平成19年度：34回開催
 のべ108名（心療科：79名、整形外科：14名、感染免疫科：10名、名腎臓科：3名、内分泌代謝科：1名、循環器科：1名）に関連した検討を行った。

6.学校保健委員会

目的・内容	学校保健について問題を検討し、その実践を推進していくための研究協議と連絡調整を行う。
開催	年2回程度(5月・2月)
学校参加者	医教連絡協議会に同じ
センター参加者	医教連絡協議会に同じ
担当窓口	学校：保健主事、センター：保健室長

第1回 平成19年5月15日(火)

第2回 平成20年2月22日(金)

2) 学校保健関連の連携活動

1. 定期健康診断：児童・生徒の定期健康診断

学校医：山崎(内科) 服部(耳鼻いんこう科) 都築(眼科) 加納(歯科)により実施された。

児童生徒の定期健康診断 内科：平成19年4月17日、5月10日、5月16日

耳鼻科：平成19年4月19日、4月26日

眼科：平成19年5月8日、5月15日

歯科：平成19年4月18日、4月24日

2. 修学旅行、宿泊体験学習の事前健康診断。

学校医：山崎(内科)により実施された。

平成19年度：平成19年5月10日、平成19年9月19日

c. 環境衛生検査

大石(学校薬剤師)により実施された。

平成19年6月1日、6月13日、6月21日、11月29日、12月11日、

平成20年1月10日、1月25日、3月11日

d. 大府養護学校安全衛生委員会への出席ならびに職員の定期健康診断・健康区分判定。

大府養護学校健康管理医(山崎)により実施した。

大府養護学校安全衛生委員会

第1回 平成19年5月8日

第4回 平成19年9月21日

学校職員の指導区分判定 平成19年9月19日

3) 学校行事・野外活動へのセンター職員の随伴等

平成19年度	日程等	随伴者	担当窓口
遠足	平成19年4月27日(金) 電気の科学館(中区)	医師:浦野 看護師:楠	センター:山崎 学校:生徒指導主事
小学部修学旅行	平成19年10月18日(木)~ 平成19年10月19日(金) 京都市	看護師(22病棟)	センター:山崎 学校:小学部主事
中学部宿泊体験学習	平成19年6月7日(木)~ 平成19年6月8日(金) 静岡県浜松市	看護師(外来)	センター:山崎 学校:中学部主事
野外活動 (小学部5・6年)	平成19年5月18日(金) 大府養護学校		センター:山崎 学校:小学部主事

4) 進路個別相談等の実施

a. 進路希望調査

個々の生徒の進路希望に対して主治医の所見を記入。

高等部:4月と10月の2回、中学部:5月と10月の2回、各生徒毎に実施した。

b. 進路個別相談会

センター参加者:主治医、病棟看護師長、担当看護師

学校参加者:部主事、担任、進路指導部

5) 大府養護学校体験入学会における個人別医療相談

年2回程度(10月 11月頃)の体験入学会にあわせて実施される。

相談担当:保健室長等センター医師、医療ソーシャルワーカー

6) センター入院児童・生徒の生活面での連携

以下の活動に対して、各主治医、看護師長・病棟看護師等が医療上の意見を述べて円滑な運営に協力した。

1. センター入院児童・生徒の毎日の健康状態の連絡
2. 学校外活動等についてのセンター(主治医・病棟)への連絡
3. センター入院児童・生徒の体力テスト、運動会、水泳、ベースランニング・ウォーキング会、修学旅行、宿泊体験学習等への主治医への確認
4. センター入院児童・生徒の家庭科調理実習の連絡

7) その他の連携活動

平成19年度第1回医教連携セミナー 平成19年7月30日(月)

参加181名 講師 栗山貴久子

平成19年度第2回医教連携セミナー 平成19年8月27日(月)

参加179名 講師 河邊真千子

- ・職員へのインフルエンザワクチン接種
平成19年11月2日(金)、11月8日(木)、11月21日(水)、11月24日(土)
- ・センター内学習室へのインターネット環境の利用
- ・集団運動療法のための大府養護学校体育館の利用
水曜日、喘息児・肥満児・多動児の集団運動療法

8) センター職員の参加した学校行事

- 平成19年4月6日(金) 平成19年度入学式
- 平成18年10月5日(金) 平成19年度運動会
- 平成18年11月9日(金) 平成19年度文化祭
- 平成19年3月4日(金) 平成19年度卒業証書授与式

17. 学術活動

科学的根拠に基づいた小児保健活動を展開するには、日々の相談活動や他施設との連携活動、さらに情報収集、調査活動などで集積されたデータを分析し、これを広く学術研究の場で討論することが不可欠である。平成19年度には、センター開所から集められたエビデンスに基づいて医師、保健師等による下記の学術活動を実施した。

(1) 論文発表・報告書等

題名	著者名	発表誌名		発行年
		誌名	巻:号:頁	
小児在宅ケアにおけるチーム医療と地域医療連携のあり方 - 医師の立場から -	山崎嘉久	小児看護	30:5:567-572	2007
時間外の育児電話相談における虐待予防 グレーゾーン家族への育児支援として	秋津佐智恵、山崎嘉久	子どもの虐待とネグレクト	9:1:121-126	2007
安心安全な予防接種 最近の話題から	山崎嘉久	岡崎医報	294:17-21	2007
日常診療から始める虐待予防	山崎嘉久	小児の脳神経	32:5:378-382	2007
子どもの健康と電話相談	山崎嘉久	チャイルドヘルス	11:1:26-30	2008
虐待予防 - 日常の小児診療で可能なかかわり -	山崎嘉久	小児科	49:3:357-363	2008
いまどきの麻疹 ~ 地域の現状と麻疹排除(elimination)への里	山崎嘉久	名古屋醫報	1317:16-18	2008
乳幼児健診の個別データ集積システムのモデル構築に関する研究	山崎嘉久、松浦賢長、田中太一郎、和田恵子、青山亜由美、榊原るり子、栗本洋子、辻 真弓、八澤佳子、齋藤みゆき、井口由香、加藤美央、牧田尚子、水野歩美、堀内康世、松田由佳、磯貝恵美、榊原奈緒美	平成19年度厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用および思春期やせ症防止のための学校保健との連携によるシステム構築に関する研究」	43-54	2008
知ろう・語ろう・考えよう! 一歩先行く健やか親子21 第7回報告	田中太一郎、鈴木孝太、葉袋淳子、松浦賢長、山崎嘉久、山縣然太郎	同上	29-37	2008
乳幼児健診データを集積・利活用するためのツールの開発及び山梨県K保健所管内における母子保健情報モニタリングシステムの構築	田中太一郎、鈴木孝太、山崎嘉久、松浦賢長、尾島俊之、山中龍宏、仲宗根正、葉袋淳子、山縣然太郎	同上	38-42	2008
脳神経外科医の日常診療の中での児童虐待への対応に関する研究	山崎嘉久、柳川敏彦	分担研究班(柳川敏彦)「医療機関の虐待対応の向上に関する研究」報告書	22-38	2008
妊娠・出産・育児期に支援を必要とする家庭の地域における保健医療連携システム構築のガイドライン	柳川敏彦、市川光太郎、小林美智子、山崎嘉久	分担研究班(柳川敏彦)「医療機関の虐待対応の向上に関する研究」報告書		2008
周産期から始める子育て支援 ~ 地域の医療機関・助産施設と保健機関との協働による取り組み ~	山崎嘉久、秋津佐智恵、松本一年、土方節子、塩之谷真弓、若杉英志、水野満地子、岩田徹也	平成19年度厚生労働科学研究費補助金子ども家庭総合研究事業「住民参画と保健福祉の協働による子育て機能の向上・普及・評価に関する研究」報告書		2008

保健センター保健室発行冊子

- 1) 軽度発達障害児の理解と保育（平成 19 年度保育リーダー研修報告書）
あいち小児保健医療総合センター総合診療部・保健室発行（2008 年 2 月）
- 2) 平成 19 年度 時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」相談情報分析報告書
あいち小児保健医療総合センター保健室発行(2008 年 5 月)
- 3) 平成 19 年度 母子保健スキルアップ研修報告書
あいち小児保健医療総合センター保健室発行（2008 年 3 月）
- 4) ACHEMEC の仲間たち - 子どもと家族の心に安心と安らぎを - (ボランティア活動報告集 7)
あいち小児保健医療総合センター保健室発行(2008 年 5 月)

(2) 学会・学術研究会報告

題 名	発表者	年月日	学会等名称	場所
妊娠出産から乳児早期の育児不安へのセーフティネットとしての時間外電話相談の意義	山崎嘉久	2007.04.20 ~ 2007.04.22	第110回日本小児科学会学術集会	京都市
相談活動から見た小児保健医療施設における保健師の役割	松岡優里、内田眞喜乃、中澤和美、加藤直実、秋津佐智恵、山崎嘉久	2007.07.28	第53回東海公衆衛生学会	津市
知多保健所管内における乳幼児健診データ管理システム構築の試み 匿名化個別情報集積の有用性	山崎嘉久、中澤和美、青山亜由美、秋津佐智恵、加藤直実、内田眞喜乃、山本田鶴子、川合美穂子、竹市由	2007.07.28	第53回東海公衆衛生学会	津市
軽度発達障害に対応できる医師を目指して	山崎嘉久、杉山登志郎、志水哲也、有吉允子、稲坂 博	2006.08.27	第44回中部日本小児科学会	名古屋市
保育園・幼稚園児に対する麻しん・風しんワクチンの実施状況	中澤和美、秋津佐智恵、山崎嘉久、宮津光伸、荻野高敏、濱口典子	2007.09.20 ~ 2007.09.22	第54回日本小児保健学会	前橋市
小児救急の社会的サポートとしての「小児救急電話相談」第三報;電話相談利用者の状況と小児救急の課題	秋津佐智恵、中澤和美、山崎嘉久	2007.09.20 ~ 2007.09.22	第54回日本小児保健学会	前橋市
妊娠中・授乳中のくすりに対する地域の相談体制の必要性	山崎嘉久	2007.09.20 ~ 2007.09.22	第54回日本小児保健学会	前橋市
小児救急の社会的サポートとしての「小児救急電話相談」第一報;運用状況等の調査報告	本田浩子、大西文子、鎌田博司、倉下美和子、小迫幸恵、長坂典子、山崎嘉久	2007.09.20 ~ 2007.09.22	第54回日本小児保健学会	前橋市
小児救急の社会的サポートとしての「小児救急電話相談」第二報;電話相談対応者の実態	大西文子、本田浩子、鎌田博司、倉下美和子、小迫幸恵、長坂典子、山崎嘉久	2007.09.20 ~ 2007.09.22	第54回日本小児保健学会	前橋市
小児専門病院における子育て支援 ~ アチェメック子育てスクール ~	内田眞喜乃、中澤和美、加藤直実、青山亜由美、秋津佐智恵、山崎嘉久、千速由	2007.11.15 ~ 2007.11.16	第29回全国地域保健師学術研究会	大津市
小児医療施設の保健活動と保健師の役割について	山崎嘉久、内田眞喜乃、中澤和美、加藤直実、青山亜由美、秋津佐智恵、松岡優里、長嶋正實	2007.11.15 ~ 2007.11.16	第29回全国地域保健師学術研究会	大津市
小児科医の子育て支援や虐待予防・対応に関する意識と医療現場で対応可能な取り組みに関する検討	秋津佐智恵、山崎嘉久	2007.12.14 ~ 2007.12.15	日本子どもの虐待防止研究会第13回学術集会	津市
医療機関におけるケース進行管理	加藤直実、秋津佐智恵、山崎嘉久	2007.12.14 ~ 2007.12.15	日本子どもの虐待防止研究会第13回学術集会	津市
虐待予防と母子保健活動 ~ 保健師だから出来る対象把握の機会と家庭訪問援助について ~	山崎嘉久(座長)	2007.12.14 ~ 2007.12.15	日本子どもの虐待防止研究会第13回学術集会	津市

題名	発表者	年月日	学会等名称	場所
事故の重症度と家庭での事故予防策との関連	青山亜由美、秋津佐智恵、加藤直美、中澤和美、内田眞喜乃、山崎嘉久	2008.01.18 ~ 2008.01.19	平成19年度愛知県公衆衛生研究会	東浦町
母子保健スキルアップ研修の評価	中澤和美、秋津佐智恵、青山亜由美、加藤直美、内田眞喜乃、山崎嘉久	2008.01.18 ~ 2008.01.19	平成19年度愛知県公衆衛生研究会	東浦町
医療的ケアを要する在宅療養児と家族への支援 ~ 院内連携と病院保健師の役割	秋津佐智恵、山崎嘉久、岩田徹也、塩之谷真弓	2008.01.18 ~ 2008.01.19	平成19年度愛知県公衆衛生研究会	東浦町
職員の喫煙に関する意識調査	加藤直実、秋津佐智恵、青山亜由美、中澤和美、内田眞喜乃、山崎嘉久	2008.01.18 ~ 2008.01.19	平成19年度愛知県公衆衛生研究会	東浦町
小児医療施設における保健師が果たす役割の意義について	内田眞喜乃、松岡優里、秋津佐智恵、青山亜由美、加藤直実、中澤和美、山崎嘉久、長嶋正實	2008.01.18 ~ 2008.01.19	平成19年度愛知県公衆衛生研究会	東浦町
乳幼児健診で得られる母子保健情報の有効活用 第一報 県集計で捉えられる地域母子保健活動の現状	松岡優里、山崎嘉久、秋津佐智恵、青山亜由美、加藤直実、中澤和美、内田眞喜乃、和田恵子、榊原るり子	2008.01.18 ~ 2008.01.19	平成19年度愛知県公衆衛生研究会	東浦町
母子保健情報システムの有用性と情報の利活用化までの課題点について	和田恵子、山崎嘉久、栗本洋子、辻真弓、八澤佳子、牧田尚子、加藤美央、水野歩美、堀内康世	2008.01.18 ~ 2008.01.19	平成19年度愛知県公衆衛生研究会	東浦町
乳幼児健診で得られる母子保健情報の有効活用 第二報 地域集計値のばらつきと個別データ収集の利点	山崎嘉久、松岡優里、秋津佐智恵、青山亜由美、加藤直実、中澤和美、内田眞喜乃、和田恵子、榊原るり子	2008.01.18 ~ 2008.01.19	平成19年度愛知県公衆衛生研究会	東浦町
小児の肥満におけるメタボリックシンドロームと自覚症状について	和田恵子、濱島崇、中澤和美、前坂明子、秋津佐智恵、青山亜由美、加藤直実、内田眞喜乃、山崎嘉久	2008.01.25 ~ 2008.01.26	第18回日本疫学会学術総会	東京都
健康スクール外来を受診した肥満児における生活習慣の特徴	和田恵子、濱島崇、中澤和美、前坂明子、秋津佐智恵、青山亜由美、加藤直実、内田眞喜乃、山崎嘉久	2008.02.17	平成19年度愛知県小児保健協会研修会	大府市

(3) 学会・研究会の開催

あいち小児センター 小児医療懇話会

実施日	内容	担当科	担当医師名
第25回 7月25日(日) 午後1時~4時	どこまで診るべき?ここからは診たい。 地域の医療機関と小児専門医療機関の役割 【治療戦略からみた紹介のポイント】 1. 「心疾患ではないか?」と疑ったら 2. 子どもの便秘と腹痛のトリアージ	1.循環器科 2.小児外科	安田東始哲 渡邊 芳夫
第26回 9月9日(日) 午後1時~4時	【テーマ;小児救急のトリアージ】 1.地域の小児救急医療に対する当センターの役割 2. 新しい小児の一次救命処置 3. 電話対応に必要な子どもの病気とケガの知識	1.腎臓科 2.循環器科 3.総合診療部	上村 治 福見 大地 山崎 嘉久

第27回 1月13日(日) 午後1時~4時	どこまで診るべき?ここからは診たい。 地域の医療機関と小児専門医療機関の役割 【治療戦略からみた紹介のポイント】 1.なぜ「新生児聴覚スクリーニング」?なぜ「手引き」? 2.小児整形外科疾患についての一般診療のポイント	1.耳鼻科 2.整形外科	服部 琢 北小路隆彦
第28回 3月9日(日) 午後1時~4時	【乳幼児健診で注目される疾病】 1.アトピー性皮膚炎の管理と指導 2.健診で見られる軽度発達障害のサイン	1.アレルギー科 2.心療科	二村 昌樹 浦野 葉子

司会：山崎嘉久

あいち・こころの診療医研究会

実施日	内容	講師
8月19日(日) 午後1時~3時半	第1回実践講座：情緒障害の総論 「開業小児科医ができる情緒障害への対応」	栗山貴久子
9月30日(日) 1 午後1時~4時半	第2回実践講座：摂食障害 「摂食障害」 「摂食障害の心理治療」	東 誠 服部麻子
10月14日(日) 午後1時~4時半	第3回実践講座：不登校 「不登校をめぐって」 「不登校外来」	今本利一 内田志保
11月18日(日) 午後1時~4時半	第4回実践講座：子ども虐待 「子ども虐待の現状と課題」 「性的虐待を受けた子どもへの対応と支援」	杉山登志郎 海野千畝子
平成19年 10月~12月	第5回診療陪席：初診、再診外来に1回ずつ陪席 ・初診外来：金曜午後 1時~4時 ・再診外来：木曜 午前 9時~12時 午後 1時~4時 金曜 午前 9時~12時	杉山登志郎 東 誠 小石慎子 内田志保
平成20年 1月20日(日) 午後1時~4時半	第6回実践講座 質疑応答と症例検討 (インシデントプロセス法を学ぶ)	杉山登志郎

PALS講習会

Pediatric Advanced Life Support(PALS)は、米国心臓協会(AHA)が米国小児科学会(AAP)などと協力して提唱している小児のための高度救命蘇生法。日本小児集中治療研究会(JSPICC)が日本

でのAHAのITO(International Training Organization)として認定。そのトレーニングサイトとして、当センターにおいて実施された。

- ・平成19年9月29日(土)～30日(日)
- ・平成19年12月1日(土)～2日(日)

愛知県小児保健協会 平成19年度総会兼研修会

- ・平成20年2月17日(日) あいち小児保健医療総合センター 大会議室
- ・特別講演:「摂食コミュニケーション - 食べて育つところとからだ - 」
NPO 法人摂食コミュニケーション・ネットワーク 理事長 中島 知夏子
座長 田中ひろ子(愛知県保健師会会長)
- ・一般演題:11題

研究発表 第1部 座長 伊藤容子(名古屋市子ども青少年局子育て家庭部)

児童生徒のアレルギー性疾患に関する実態調査

愛知県薬剤師会 木全勝彦

高校1年生の肥満と血圧との関連について

～平成18年度愛知県立高等学校心電図検診結果より～

愛知県学校保健健診協議会 白石祐一

小児糖尿病サマーキャンプを通して得られた効果と課題

あいち小児保健医療総合センター 横江真由美

健康スクール外来を受診した肥満児における生活習慣の特徴

あいち小児保健医療総合センター 和田恵子

小児メタボ健診事業から得られた1知見

愛知県医師会理事 稲坂 博

研究発表 第2部 座長 劔 真紀子(愛知県市町村保健師協議会副会長)

健康づくりに進んで取り組むことができる子をめざして

- 歯・口腔の健康づくりを意識した保健指導 -

愛知県小牧市立三ツ淵小学校 山田阿希子

乳歯う蝕対策における効果的な保健指導の検討 ～幼児のう蝕発生に関する要因分析

愛知県半田保健所 畔柳由佳里

小学校児童における防煙教育の成果について

(学校薬剤師と養護教諭による9年間の実践報告)

愛知県薬剤師会 清水裕世

小学校6年生の喫煙についての意識の評価と地域差

愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科 稲垣幸司

山間地域の乳幼児健診事後フォローに関する一考察

豊田市役所地域保健課 夏目佐織

外国人家庭への子育て支援体制充実に向けた試み

愛知県豊川保健所 椎葉 直子